

31
14

獨逸 ウルホン氏著
日本 佐々木梅治譯

基督教と異教との衝突

發行所

東京 教文館

獨逸 ウルホン氏著
日本 佐々木梅治譯

基督教と異教との衝突

明治

37 10 31

内交

發行所

東京 教文館

基督教と異教との衝突目次

第一章 多神教界の宗教上の状態

- 第一 諸國民の羅馬帝國に混入する事……………一
- 第二 宗教の衰退……………二十七
- 第三 外教と贖罪の希望……………七十四
- 第四 ユダヤ教……………百六

第二章 多神教界の道德上の状態

第一 信仰と道德……………百二十二

第二 婚儀及一家の生活……………百三十一

第三 勤勞と奢侈……………百四十三

第四 公衆の競技……………百五十九

奴隸制度……………百七十四

道德革新の必要……………百八十五

第三章 基督教徒

第一 福音の傳教……………百九十八

第二 基督教徒の禮拜及信仰的生涯……………二百十六

第三 基督教徒の行爲……………二百二十二

第四 基督教徒の仁愛……………二百五十七

第五 教に殉する事……………二百八十

基督教と異教との衝突

第一章 多神教界の宗教上の状態

然とも期すでに至るに及びて神その子を遣し給へり彼は女より生れ且律法の下に服したり(加拉太四〇四)

第一 諸國民の羅馬帝國に混入する事

昔時の基督教辯護者の一人なるサーデスのメリト曰く基督教は羅馬帝國と同時に生れ出でたりと眞に然り我主キリストの降誕の記事中第一の羅馬帝の發したる税法の敕命出でたる事のみにても時既に至れるを示す明なる徴候の一なりとすオーガスタス帝の名は古昔世界

の頂點を印す何となれば古昔世界は羅馬にて其頂點に達し羅馬史は帝國の勃興にて其頂上に達したればなり舊世界の極盛(換言せば)衰退の始めに當りて一の人こそ世に生れ出てたり之ぞ舊紀元より新紀元に變遷する時なり是ぞ數代の決着點なりし也

自然界に於て萌芽の將に出づるや親木の全く枯死せずして外見上なほ勢よくある中に初めて生出し生長して親木の枯死を速ならしむるが如く新紀元の舊紀元を顛覆するに於ても亦然り舊世界が全く枯死したる時に基督教世界が初て顯出せしにはあらずして其破壊的勢力は潜に其勢を逞ふしつゝあり而して人目には少くとも舊世界は依然として其美を保持し繁茂しつゝあるが如く映じたる中に業に己に新生命萌芽し舊生命は漸く衰退し去りてその生長發達を間斷なく助長しつゝありたり羅馬の爲すべき事業は結合にありき實にクリユ

トに結合するにありき羅馬帝國と基督教會と同時に生れ出てたるは相互のために神の攝理し給へる事なりとす天國は一粒の種子の如し種子を蒔かんよせば先づ其畠を準備せざるべからず羅馬帝國は整備せる畠なりし也天國はパン種の如し粉にパン種を混せんとならば先づそを善くふるわざるべからず羅馬帝國は第一にパン種を用ふるよと命せられたる一塊のふるひたる粉なりしなり今日まで各個別々に生

活し労働しきたりしなり凡て世界の人民その事業組織富貴寶物其技藝科學上の知識昔時より傳來せる口碑傳説をが神々を禮拜するの儀式凡て存在する教育の分子文明の勢力要之總てのもの今や一帝國に包有せられたり當時廣袤人口に於ては羅馬帝國に勝れる帝國ありと雖文明諸國を總て一手に統一したるは一の羅馬帝國あるのみにして古今東西の史に徴するも他に其比を見ざる也

羅馬人の歴史的事業は實に右の如き帝國を建てるにありき地理學上よりするも羅馬は當に斯の如き帝國の首府となるべき地勢と希望とを并有せりと云つべし舊世界の中央海なる地中海の沿岸には文明國民の住居しあるなり地中海の中央に突出して伊太利の長き半島の横はるありその中央に羅馬府あり即ち中央の中央なり此を起點として羅馬人は世界を征服し支配したり彼等は此命を天より稟けたり彼等は平和の民にあらすして戰爭の民なりき思想家の輩出すべき國民にあらすして所作有爲の國民なりき技術に富まざるも戰に勇に政治に巧みに加ふるに稀世の同化力及組織力を有し政治立法上に強壯なる天稟の才能を有したる國民なりき一の哲學的系統を生せずと雖も彼等は完全の域に其法律を達せしめたり彼等は一の美麗なる神廟を建設せざるも大に土木を起し道路橋梁を修め諸國を合縦し城壁を築き

て民を保護する事を勉めたりき彼等は地球の盜賊なりしなり然れども自ら盜賊の業に従事しつゝあることを覺らざりしは蓋し神意に出づ彼等が暴虐を逞ふして統一したる帝國は愛なる永遠限りなきの神がその神國を此世に建設するに際して大なる服務を帯びたる也共和政府其終末に達せし時は世界征服の大事業も略其功を竣りたりと云ふべし而して羅馬は上一人の主權者即ち皇帝を戴くこととなりぬ此よりして最初單に外見上結合したる異類國民の集合體の解散こそ始まりたれ第一皇帝オーガスタス羅馬の公會堂敷地に黄金の里標を建て、世界の中心は羅馬府なることを示したり當時殆んど完全したるに公道は此金里標ある點よりして蛛の巢の如く全帝國に擴がりありたり西班牙のカーデスより佛蘭西伊太利を経てイチプトのナイ川河の瀑布に至るまでダニール河所在の地よりハーキルスの塔柱に

六
至るまで道路良全にして旅人は好距離に馬を替ふべき宿驛を得夜は
至る處安臥すべき旅舎を得るの便利ありたり此等の道路は征服した
る諸國を中央羅馬に結びつくる多くの線糸ありしなり又羅馬より流
れ出つる勢力の多くの運河となりしなり軍隊は此等の道路を進みて
征服したる諸國を鎮し國境を守護したり執政官の諸州に至り司法行
政の事務を取りたるも此等の道路により皇帝の急使が敕詔を齎らし
て廣大なる帝國の極端に至れるも此等の道路に依れり商業は勿論高
貴なる羅馬人が世界の智識を得んとて旅行したるも此道路に依りし
なり福音の使者が市町より市町に救世主世にあらはれたりとの喜ば
しき音信を運びたるも此等の公道の便を藉りたる也
今や全帝國中に大變革こそ起りたれ今日まで人民を結合せしめたる
は只戦争のみの力にこれ因りしか嗚呼今や始めて平和が人民を聯合

せしむるに至れり亂麻の如き内亂止みて茲に始めて帝國は眞の平和
を克復したればなり今や四海波穩かにして市民村至る所繁昌し平和
泰平なりとはオーガスタス帝を賛するの辭なりきプリニー曰く今日
まで形を潜めたる物顯れ出て、今や廣く用ゐらるゝに至れり也
ヒロ曰く有毒有害なる分子は遠く驅り去られて只有益なるもののみ
地球の端より世界の帝國に輻湊するに至れりと現今の貿易に比較せ
ば羅馬帝國時代の貿易は實に微々たるものなりしなり例之一千八百
六十一年より九十六年に至る英國が亞細亞より輸入したる額は夥た
いしきものにして平均年々七億万弗に達したり而してプリニーの統
計に據れば羅馬全帝國が東洋より輸入したる商品は僅々五千二百五
十萬弗なりき然も之を昔時に比すれば羅馬は皇帝治下に商業の著し
き發達を見たりと云ふべし而して諸國民を近接せしむる點に於ては

與りて大に力ありたるや明けし當時羅馬は東洋商業上の大都會アレキザンドリヤ、アンテオケ、イフイサス、スマーナ、コリンヌ等と相並て商業の繁盛なりしこと實に空前絶後なりき凡ての事物盡く羅馬に注ぎ入れり技術上に科學上に發明する所ありて世人の承認を得んと欲する者權勢ある者に近づきて己を利せんことを願ふ者大審院に上訴して己の權利を擁護せん事を望む者正直なる事業を營みて富を獲んとする者否な冒險詐術に依りて一攫千金の利を占めんとする者既に富巨万を累ねて都府の奇觀を目撃し其快樂華美を味はんと欲する者等は皆羅馬に行けり歴史の材料を得んとて此比類なき帝都に來りて街區を徘徊する高等教育ある希臘人好て眞正の羅馬人に擬する半可通の田舎紳士穀物取引の爲に上羅したるアレキザンドリヤの商人、次回の獵見世物に出すべき獅子の送狀を携へ

來りたる亞弗利加の野蠻人新しき神の禮拜を弘めんと希望を以て護符守札を賣付けし處の狡猾なるスリヤ人近來羅馬市民等に資格を附與せられ得々として永久の市即ち羅馬府に參觀せし處のゴトル人金錢上の利益を獲んためか或は改宗者を得んと目的を以て長程を厭はずして羅馬府に來りたるユダヤ人羅馬軍旗に伴ひ來りしイリヤ人及トランシャヤ人之等は至る所に散見し得べし羅馬に向ふ潮流は以上述べ來りたるが如し然らば又州郡に反流する潮流なかる可からず然りこれ在りて諸國民の解散を速かならしめたり羅馬が征服したる國々を治めしめんがために派遣せし行政官經濟上の都合によりて州郡に退住せし武士帝國が派遣せし軍隊及殖民之等は皆同化の大運動を助けて大速度を以て其目的を成就したり羅馬政府は殖民政畧を採りて無數の殖民を諸州に派遣したりされば彼等

十
は西班牙、ゴール、希臘にありて自ら羅馬の一部分を組成せり彼等は依然羅馬市民たるの権利又その法律を保存し應用したりライオン地方、シリヤ、ブリテン、及ダニール地方に鎮臺を置き軍兵を駐屯せしめたることもまた此羅馬化的運動を大に助けたりと云ふべし地方州郡に於ける羅馬化的運動の奏功如何に迅速なりしかはブリテン(英國)の場合に徴して最も明なりとすブリテンは紀元四十三年に再び羅馬人のために占領せらるゝ所となりたるが歴史家タシタス六十一年の同國の狀態を記するに左の言を以てせり曰く茲僅々十八年間に萬事が如何に變りたるぞや城壘は蜘蛛の巢の如く南部に廣がり酋長は全く羅馬風に倣ひて各知事として政を司り血醒きドルイド教の禮拜は其後を絶ちて羅馬の風俗習慣大に傳播しコルセスタアの殖民地は澎漲して重要なる一大都會となり其中には羅馬大神宮の堂宇巍々として雲際

聳へ大理石を以て刻みたる勝軍の女神曲馬場劇場等は至る處に散見するを得べしロンドンニアムは今や盛なる商業市となりて羅馬の製品ゴールの物産を商ひ而して民は既に伊太利亞的快樂に慣るゝに至れり
當時まで文明てふものを有すと雖も僅少否な皆無なりし國々に及ぼしたる羅馬化的感化の至て速に至て強かりしことは自然の數なりとす西班牙、ゴール、北亞弗利加は暫時の中に全く羅馬の風習に感染したりと雖も東方地方に於ては然らざりき希臘の文明は羅馬のそれよりも高く皮想上征服者の地位に立てる羅馬は内實次第に精神的希臘人に従へられつゝありたるなり當時希臘が世界に對する感化力は一度佛蘭西の歐羅巴に對するが如くなりき多數の希臘人は哲學者、修辭學者、學校教師、醫師、技藝者をして陸續伊太利亞、羅馬府に來りて希臘語を

教へ又哲學を授け希臘道德及不道德をも傳播し終に古昔希臘文物の
 産出地を親しく跋渉することは彼の紳士たり淑女たる者の標證とな
 るに至りたれば無数の青年が陸續としてアゼンス、ローデス及アーセ
 ールヌまでも其足を運び甚しきは希臘の不道德をも傳習し來り恰も
 前世紀の人々が佛蘭西巴里に群り至りたるに等し羅馬共和政府の終
 末に際して既に地歩を占めたる希臘主義は皇帝の世に至りて益進歩
 し來りて否帝の時に至りては殊に著しき進歩を爲したへき
 羅馬の文明は世界を征服したりと雖も漸次希臘文明に浸染するに至
 れり此等文明の二流相合して第三の新しき文明を成せり此文明たる
 や舊羅馬的のものにもあらず將又昔時の希臘的のものにもあらず全
 く新異のものなりしなり即ち希臘羅馬的文明なりとす羅甸語は舊來
 の土語を根絶するの勢を以て西部州郡に大に行はれたるのみならず

猶有力なる人種の國語としてパルステナイチプト地方に於ても行は
 れたりき希臘語は羅甸語よりも多くの點に於て世界語たりしなり即
 ち同國語を操り得る者は國の東南を問はず至る所に理解せられけれ
 ばなり羅馬政府が共通法律を公布したるは結合の他の綱を世界に與
 へたる者にしてその發達進歩に伴ふて世界は漸次同形の社交的生涯
 に慣らさるゝに至れり
 東部帝國は今日に至るも依然守舊的性質を保持すと雖も當時尙其特
 質を固守したりき希臘化されたる都府即ちアンテオケ、ニコメヂヤ就
 中アレキザンドリヤの如きは希臘的文物を助長するに與りて大に力
 ありたるも此地方に於る變革の度は西部より遙に僅少なりき東洋文
 化は羅馬希臘の文物と相並て第三の分子を組成せりと云ふを得べし
 殊に宗教上の範圍に於て然りき此分子たるや帝政の初より徹に其跡

を追ふべく第二第三世紀に至りて漸く其形を顯すに至りき羅馬精神は政治法律の上に主權を握り希臘精神は技藝科學上に其勢を逞するに當り東洋精神は宗教上の生涯に其深き記號を印したり上來叙し來りし如く羅馬帝國の此部分即ち東部諸國は帝國の内部的生長を助けたるが之を實に重要なるものなりしなり何となれば羅馬帝國の依りて生存したる眞實最高の目的は宗教發達を措て他に求むべき所なるれば也以上述べ來りたる事實は宗教上の進歩殊に基督教の博播に多大なる補助を藉したるや言を待たずして明なり今や宗教上の刺激が世界の一部分に起るも昔時の如く一の隔離したる人民の一小社會に埋没せらるゝの恐れなく其刺激にして果して十二分の勢力を有したらんには至帝國を通して擴まること恰も掌を反すが如く何處に至るも限界を見出さざりき交通の機關は具備し羅典希臘の二大國語は到

る處に理解され共和の利害共有の法律加之社交上の習慣儀式は次第に一樣に成り來りて共に其刺激を助長せり此事實を確めんとならば吾人は宜しく使徒保羅の生涯及其働を觀察するを要す保羅の如き傳道大仕事を成就せんには羅馬帝國を措て他に求むべきなし之等の事實は皆重要なる者なりしや疑なしと雖も至重要なるものたらざりしなり當時まで全く知られざる宇宙主義一步進めば基督教の宇宙主義が羅馬帝國に發達しつゝありしことこそ至て重要なものたりし也羅馬帝國の依て存在するに至りたるの天意は此點に於て最も著しくあらはれたりと云ふべし紀元前紀元後を問はず凡そ人間種族は國民として發達する者なるや明けし神はまた一の血脉より出でし凡ての民を悉く地の全面に住せ豫め其時と其住ところの界を定め給へりとは使徒保羅が希臘亞典

市に於て爲したる演説の句節ならずや此に於てか吾人は知る世界國民の政府及其保護は凡て天意に出でたるなれども彼等之を知らざりし事を然れども基督紀元前に於ける國家てう意味は紀元後に於けると全く其意義を異にせり舊紀元に於ては國々各個分立し其れ自らの爲に存在し働きたり文明上共有の事業ありて國々相互に補助し共有の發達進歩を圖るの機なく寧ろ一國が其事業を他の國に譲り傳へたるなり即ち東洋諸國が其事業を希臘に傳へ希臘は羅馬にと漸次傳來したるなり之に反して新紀元に於ては國々相頼るが故に或一國が文物の専有者にして總て他の諸國が行つて之を習得するの要なく國各文明の共同事業に従事するが故に互に與へ互に受くるなり彼等は國家として區別あり又各其の個性を保持するも文物に至ては共有なり基督教文明を有する國々は大なる成体として結合しつゝあるなり

今日之を非認せんとする者多くありと雖も彼等が結合したる眞因は基督教を共有するにありしや明けし羅馬は此等二種の國民的生涯の間の連鎖なり此より他に遷る過渡の時を受けたるなり舊紀元にては吾人は孤立する國を見るのみ一の結合を認むる事を得ず新紀元に於ては國を異にせりと雖も而も其上に一の結合の絆あるを見る羅馬は凡ての國々を統一して外形上一國家となしたれば異なりたる國粹既に其後を絶ちたるか如しと雖も眞實なる内部の結合に至りては依然として欠けたれば羅馬は之より進て之を求めざるべからず帝政治下に於ける羅馬は漸く古來の國粹を失ひ其名門舊家は廢滅し去りて地方人士之に代り遂にはその帝王も地方より出づるに及びては羅馬人たるもたらざるも少しも懸隔なきに至り羅馬市民權は益々地方人士の占むる所となり古代羅馬の技術道德廢頽するに伴ふて古

代希臘の精神も共に衰ふるに至りき羅馬の殖民地なるコリンスは今や亞典市に超絶し小亞細亞に在る希臘風に感染したる都市は其昔し文化文物の源泉と唱へられたる希臘の都府よりも重要なる智識商業の中心となるに至れり

舊世界の生涯には一種狹隘なる點の附着しありじは蓋し凡ての發達進歩が純粹なる國家的方針を取れるに因す中庸てふ事は昔時の人々の至重せし徳なりき古昔希臘の文雅優美の風も古昔羅馬の嚴肅なる徳も共に此處に其源を發したる也然れども今や此狹隘なる思想は其姿を隠し世界的帝國の交通貿易を通じて小國家的思想は漸く膨脹し來りて世界的觀念となれるに及びては人生の總ての部門に自由てももの顯れ出で、人々の見界思想はますます其範圍を擴め極微に渡る哲學的統系は其著しき特徴を失し今や實際的哲學は發達し來りて人々

々の大に之を尊重せるは其觀察の精確なるがため將た推論の論理的なるがためにはあらで寧ろ觀察推理の至て粗なるがためなりしなり

美術技藝の体裁も帝政治下に大に混合せりと雖もその傳播を遍ねからしめたる事は前代未曾有なりし也美術品技藝品の豊富なりし事は空前絶後にして羅馬府は勿論地方の都市にても宏壯なる建築物美麗なる鑄像彫刻物の充溢したる事は現時美術を以て著名なる都府と雖も其後へに墮著ならざるべからざる有様なりき家各々美術品を以て日常の器具を飾り周囲の物品を裝飾したり、ダニープライン河地方の陶器製造家は希臘形に摸したる製作品を出し羅馬の殖民地に於てすら希臘風に摸したる美術品を大に需用したりし事を見ば吾人は其發達普及の如何に大なりしかを推察するに難からず

要之文物は今や普及するに至りぬ數多の學校は建設せられ今日ま

では少数人のみが其恩恵に浴する事を得べかりし教育は自由に數多の子弟に授けらるゝに至れり加之書籍の低廉なる事と公共圖書館の設けありたるが又均しく教育の普及を促せるや論なし印刷術は大に進歩し廉價にて書籍を出版し得たりしかば圖書の普及推して知るべしブリニーは自らの著書カライオンの書店にて販賣せらるゝを見て快哉を呼べり皇帝は既に圖書館を羅馬府に建設すの企てありたるがアスニアスポリオの時代に至りて愈自由殿中に羅馬第一の公共圖書館を建設したりオーガスタス帝は初に二個の圖書館を設けたりしが後尙數多を増設したりき學問は漸く百家全書的になり來れり教育ある人とは總ての問題を知り居るべき者にして智識の凡ての部門を研究し文法古物學農業は勿論軍學をも心得居らざるべからざりし也世界の地理歴史に殊に重きを置きて研鑽したりしは以て當時の特

徴を知るに足らんか

教育の普及に伴ふて人々の思想見界の廣大になり來れるは自然の數とす古昔の希臘人羅馬人は一切其國及其人民にのみ留意したるに反して帝政治下に於ける羅馬人は凡ての事物に興味を感じたり即ち諸外國と其人民より下りて遠隔の地帯に生ずる動植物に至るまで熱心之を研究し珍奇なる獸類を輸入し來りて公衆の觀覽に供し皇帝も大に之を奨勵したり諸國の物産を輸入交換し南方の菓物を北部地方にまでも移植したためにゴール地方に橄欖及葡萄の繁殖を見るに至りき當時又大に流行したりしは旅行なりとす希臘を見ざる者東洋に足を入れざる者亞典市及アレキサンドリヤに至らざる者は殆ど無教育者と見做されたり現時吾人が伊太利亞及スウキツランド地方の案内記を有すると均しく羅馬人の旅行せんとする者は種々なる景色を指示

し堂宇、伽藍彫像、書畫、骨董品の見るべきもの要するに特別の興味を有する者を詳記せる案内書を携帶して其途に上るを常としたりき當時の小説文學を閲するも旅行熱の如何に高かりしやを知るを得ん人々は好んで旅行記をもし荒唐不稽奇々怪々の小説大に世に行はれたり

此全体の成行を目して衰退と稱すべきか將た進歩と唱ふべきかは古今の人々の論争したる處にして未だ何れとも決せざるが當時の人々の中にも羅馬は繁榮の極點に達したれば取りも直さず衰退の始める事を豫知したる者ありたり伏して願はくば天が余の豫言をして偽りとならしめ給はん事を然れども余は知る傲れる羅馬は自らの繁榮の犠牲となりつゝあることをとはプロパーテアスの云ふ處々スタスの如きは羅馬を打滅す者はゴール人ならんと言ひしは實に豫言者的

慧眼を具へし者と云ふべし帝政治下に於ける羅馬は昔時の如く創作生産の力を失ひ反省の氣風は意志の力よりも強大となり嚴密に之を云はし新しき物は一も生ずる事なきに至りき然れども果實熟する前に花は必ず落ち散らざる可からざるか吾人は必ずと云ふを得ず帝政治下に於て諸國民が相互に混合し其餘波哲學上美術上の混合を來したるは一の衰退と見做し得べきもこは反て昔時の排外鎖國主義を打破したる者にして相互交通のためには嘉すべき現象なりとす而して誰か智識の廣潤になり來りたる事技藝の一般に普及せるを見て一段の進歩發達となすを拒む者あらんや諸般の科學技藝の依りて存在するは可成的多數の人が其恩恵に浴する所あるがためならざるか吾人は然りと信する者なり

思想に於ても生活に於ても古昔の狹隘を脱却して廣大なる世界的境

域に進みたる舊世界は今や基督教の宇宙主義を受くるに適合するに至れり非國家的及び全種族的宗教てう觀念は大磐石の如き堅固なる舊國家の前には畏縮したるなるべしと雖も今や舊國家は滅びて其後を止めざるに至りたれば古代の希臘人羅馬人には全く解せられざる宇宙的教會てう觀念も帝政治下の羅馬人には奇は奇なりと雖も少しも思ひ當らざる節なきにあらざりき何となれば彼れの生存し目撃する帝國は取りも直さず宇宙的帝國なりければなり

之等は凡て準備に過ぎざりき舊世界は基督教の宇宙主義と自力を以て豈に産出し得るの理あらんや廣大無邊なる羅馬帝國に生じたる交通機關發達の結果は一の聯合にして眞の結合にあらざりき眞の結合は自ら異類を豫想し結合とは高尚なる主義の下に數多異分子の組成せる大同團を意味するものなれば此に至りて吾人は舊世界には越ゆ

べからざる限界あるを見る一言以て之を掩へば舊世界にはヒーマニテールの思想全く存在せざりし也即ち聖徒保羅か古昔智識の淵藪たる希臘亞典市に於て説きし人類の結合國民全種族的の組合てう大眞理は舊世界の人の頭腦に存せざる否な全く思ひ當らざる迄なりき

然れども終局の理由は最一層深きに存す舊世界には一の宗教上の一致合同なかりき現今文明諸國を一致合同せしむる處の者は彼等が均しく基督教を共有するがためのみ此共有物を其中より取り去らんか文明の發達進歩は次第に各岐路に渡り其中の一強國が覇權を握りて彼等を驅りて一帝國に包括するに非ずんば古昔の如く相互に敵視するに至るや必せり然れども此事たるや現時多くの部分に於て許されざる處なるべし何となれば現今交通機關具備しありて相互の反省を促すの結果諸國の聯合となるがためとす然れども之は宗教を度外視

し共有的文明てう事に重きを置き恰も外形上の結合か自ら活氣ある
 社會を創造し得るものと思ふ愚論にして此全体の共有文物の眞髓は
 彼等が共有する基督教に存せることを忘れたるものと云ふべし人類
 は諸國民を組成する成員なりとの觀念は那邊に存するやと云ふに一
 の神一の救世主に其信仰を置く所に存するあるのみ多神教か人民の
 信仰を左右し宗教は純粹に國家的なる間は人類は各鎖閉割據して數
 多の國家を組成する者なり羅馬帝國に宇宙主義の起りたるは宗教上
 の發達進歩に伴ふて偶像教内に業に己に一神教的傾向の發芽しつゝ
 ありたるに因す然れども此傾向たるや影の如き唯一神教に過ぎざり
 き即ち此は古ひの嚴明活氣ある國家主義に取りて代りたる万有神教
 の彩色を帶べる抽象的一視同仁なりしなり然れども死せる神の代り
 に天地の創造主にして我等の主イエスキリストの父なる生きていま

す神を宣べ傳へられたるに及びて人類は茲に初めて抽象的一視同仁
 の境涯を脱して基督教界を支配する眞正の宇宙主義に進達し得たる
 也以上叙し來りて吾人は之より皇帝治下に於る羅馬の宗教上の状態
 を觀察すべき順序に達せり

第二 宗教の衰退

使徒保羅が希臘亞典市に至り市人の生活特に彼に取りて至て重要な
 興味ある宗教上の生活を親しく觀察せし後その受けたりし感話を演
 説劈頭に下の句を以て摘要したり曰く迷信に過ぐと(譯にはルテルの
 なるも正暁を欠く)之を譯してあまりに神を畏るとなさは略原意に
 近からんか之は保羅が亞典市民につきて言ひしものなるがさて羅馬
 帝國の宗教生活を觀察したらん者も之と同じき感起せしなるべし

國民は如何に無数の神々に奉仕するぞ金錢を吝まらず美術の粹を盡し美を盡したる堂宇伽藍が如何に多量なるぞや而して禮拜の儀式形式は異種他様なるのみならず極めて多量なるぞや事實斯の如ければ誰か舊世界を目して無宗教不信仰と唱ふる者乎偶像教徒の眼より之を見ばクリスチャンこそ反て無宗教不信仰と稱すべけれ實に彼等はしばしば不信仰なりと嘲けられたり蓋し彼等は偶像教徒が其生活の時々刻々慣されたる儀式に類せるものは一も有せざりければなり舊世界は全く神々の住家と稱すべきか至る處に寺院ありて宏大壯麗を競ひ市町村原野森林の別なく否な荒蕪の土地の端に至るまで必ず何かの神を祀に堂宇ありたり聖ペルナード山の頂にはジュピターの伽藍ありて此處まで來りし旅人は感謝と祈願を捧げて歸途の安全を祈りたり我國は斯くまでに數多の神の住居しませば人を見出すよりも

神を見出す反て容易なりとはカンパニアより來れる女の口を藉りてペトロンアスの云ふ處ろ然れども豈管に之のみならんや少なくとも花冠神明繩等を以て飾られたる神木神石神岩ありて其傍を通過する者は必ず尊拜するを例としたりき然り舊世界の生涯には全く宗教の透徹せざる處なかりき

國家が其基礎を宗教の上に立てたるは蓋し人の本心を拮制し人々をして法律規則を尊守せしめんとの趣旨に出づ之ぞ神々天意及因果應報に於る信仰の因て起る處とすブルターク曰く若し國家にして神に信仰なくして存在し得べくんば家屋なく土地なきの市町も存立し得ん信仰は結合の基にして凡て立法上の支柱たる也とポリビカスが羅馬人が殊の外信心深きを讚するに左の如く言へり曰く羅馬人が金錢取引上他の國民よりも信用せらるゝは彼等が神々に祈誓を立つるが

ためなりと要之凡そ重要なる公事には諸々の神々に祈願し犠牲を捧
 て宗教上の儀式を執行し人々集會を催すや祈禱を以て之を開會した
 りオーガスタス帝詔勅を下して曰く苟も議定官となり就職するに當
 りては必ず先づ集會を開くべき寺院の祭壇に詣で神酒を捧げ香を焼
 くべしと共和政府の終末に及んでも軍氣を鼓舞したるものは祖先の
 神々なりき戰場に赴くに際してポンペイが其士卒に對て懇に戰術を
 説きしも彼等は少しも感動せるの色なかりしもケイトが己れ之を信
 せざるも悲憤慷慨の音調を以て祖先の神々につき語り出るや全軍の
 士氣忽ち勃興し遂に其戰に勝利を占めたりき舉國既に然り凡ての社
 會即ち市町村辻浦々の別なく特殊の儀式を有し完備したる制度によ
 りて僧侶の學校を設け又た特に祭日犠牲の日を制定したり市町村至
 る處に守護神を祭るに地方的儀式を以てし而して其儀式は社會の行

政制度に親密なる關係を有しありて之を支持するに地方的愛國心を
 以てしたりき之と同じく一家一族の生活に於ても宗教的趣味を帯び
 ざるはなく毎節季に或は重大なる事件ある時には必ず宗教上の儀式
 を執行して之を祝したりき一家一族の上において守護すると稱する
 無數の神の名は寧ろ神の職掌を示したるに過ぎざるものにして獨立
 存在を有する神体と思はれざりしもその名稱のみにて既に上述の
 理由を證するに難からずルシナなる女神は小兒の誕生を守護しその
 生れ出づるやカンデフラに燈明を捧げナンデナなる神には九日目命
 名の時に祈願をこめポシナイドカなる神は赤子に飲食する事を教へ
 その初めて漫歩するやスタシナたる神を祭りアベオナなる神は歩行
 する事をフアリナス神ロクテナス神は之に談話を教へキニナ神は搖
 籃に潜み居ると稱ふる魔神を除き去れり其外戸扉の神國の神蝶達の

女神盲目者の神、石女のため、女神等數へ來らば吾人は其際涯なきを見るのみ、青樓、枝樓、酒亭及牢獄に至るまで各擔任の神ありとは、ターチリアンの絶叫する處、要之一家内の祝儀は同時に禮拜式なりとなり中等社會には中等社會の神あり、下等社會には下等社會の神あり、各祈誓をこめてその擁護を願へり、桁の龜より馬の神なるイボナは、厩を瞰下し、チブチウンなる水神の像は、船舶中に祭られ、商人は商賈繁榮なれかしとて、商神なるマーキリーに祈禱を捧げ、土地を耕作するや、セレスに祈り、收穫に際しては家猪を屠りて之に捧げ、森林を伐採するや、先づ山神に願ひて許可を受くるに非ずんば、決して斧を入れざりき、叙し來りて吾人は知る、舊世界の生活は宗教上の儀式に於て極て豊富なり、し事をイチプトスリヤ地方、希臘の都市、羅馬の大刹と云へ至る迄、異種多様の神々如何に多數なるぞや、イチプト人、スリヤ人、希臘人、羅馬人が

祈を捧げし神々は如何に其類を異にしたるぞ、東洋人は神を下して天然と均しき者とせり、唯物的傾向はイチプト及其以前の亞細亞の宗教に充溢したりければ、皇帝治下の物質的時代に當りて多く之に歸依する者の起りたるは、敢て怪むに足らず、男女交合の神、生死の神を祭りて、殘忍酷薄なる所爲を敢てしたると同時に淫逸の行爲に耽り、人をして肉的快乐の裡に恍惚たらしめたりければ、モロクと云ふ無慈悲極まる神は、面前にて燒き殺さるゝ小兒の悲鳴を聞き、て喜び、メリタ神の宮殿には遊女、其淫を鬻ぎ、未通女は其操を犠牲に供したりき、カドニスなる神は、獵に出て、野猪の殺す處となりたれば、その祭日には、植ゆるや否や、枯れはつる花園を造りて、彼が運命の表號とし、棺の傍には、創口より鮮血滴り出づるアドニスの像を安置し、數多の女共、其側に立並びて、悲鳴の聲を擧げ、彼が果なき最後の光景を誦し、頭

髪を裂きむしり其胸をかきさき斯くする事一週日にしてアドニス蘇
 生せり昇天せりと叫聲起るを合圖に亂暴狼藉の祝宴次ぎ來るなり
 き希臘人は之と正反對の針路を取れり彼等は自然を理想とせり唯心
 的傾向が彼等の宗教を支配したるは恰も唯物的傾向が東洋人の宗教
 を支配したるが如し彼等も東洋人と同じく聖なる生きています一人
 の神を認め能はざりき即ち聖と云ふ觀念のかはりに美てう觀念が至
 高至崇の地位を占めたる也希臘人は東洋人の如くに神々を怪物とし
 て尊崇したるにあらずして之を極善極美なる人間の模範として拜し
 たりければ彼等の禮拜には自ら歡喜の情充ちたりき希臘禮拜には亞
 細亞禮拜に附着しありて吾人をして嫌厭たらしむるが如き粗野なる
 唯物主義酷薄放慢なる處なきかはりにそを一貫せる熱誠と深奥とを
 缺きたりき靈妙不可思議なる東洋禮拜には吾人人類を償はんため親

しく下界に照臨ましませし神を暗示したるや論なしと雖も世界道德
 の觀念は初て希臘人の頭腦に浮び來れりと云ふを得べしパールは畢
 竟生物を創造し之を渴せしめ之を滅す太陽なるのみゼアスは正義の
 守護神にしてアスケラは自然の肉情を代表しヘレは婚姻及家庭を保
 護する女神なるのみ要之希臘人の宗教は東洋人のそれよりも凡ての
 點に於て純潔なりしも漸次腐敗し來りたるの結果東洋的熱心の正反
 對なる放慢鄙猥に流るゝに至れり希臘は神祇誌に富めりと雖も其神
 々は人間の過失惡徳を表示する擬神なるのみさればオリンパスに宴
 會闘爭詭計暴戾戀愛の陰謀野心的競争ありしも之は希臘國一般風俗
 の寫生畫に過ぎず東洋人は其が神々の臣僕たりしかど希臘人は其が
 神々の主人公たることを知りたりき何となれば彼等は自ら之を造
 り出し其像は自國技術家の彫刻せるもの神祇誌も自國の詩人の創作

したるものなる事を知ればなり然れども事此處に止まらざる也不信の因りて起りたるも希臘よりなり希臘人の感化をうけたる羅馬人もオリンピアの神々を信仰せざるに至りて奇怪極る東洋的神々が此處に再び其勢力を恢復するに至れるなり

羅馬に於る宗教と生涯は希臘のと其組織を全く異にしたるのみならずその發達も大に異なる處ありき羅馬にては國家はすべてのものなれば公生涯と宗教と密接の關係を有せる事は他に其比を見ざる處なき我祖先が同一の人が宗教上の禮拜儀式及其國政を司るべき者なりと決心したる時程賢なるはなかりき又最も神に鼓吹せられたるはなかりきとはシセロの云ふ處なり東洋諸國にて重要なる權勢を弄せる僧侶も羅馬にては政治家のためには至く壓倒せられ執政官自ら禮拜儀牲の式を司りたり勿論彼は數多の僧侶によりて圍繞せられたるもそ

は單に儀式の教導者と稱すべきものにして執行の順序を示し又用語を教へたるのみ羅馬にては國家即ち羅馬國が至高至尊なる神として崇められたる也共和政時代にありては國家の代表神はカピトリンジユピターにして戦利者は其堂に進み行きて謝拜を呈したりと雖も帝政が一旦共和國を顛覆して其後を襲ふや皇帝は國家の代表者として稍カピトリン神の領分を篡奪し遂には皇帝自ら神となりて之を祀る

官幣大社は國家固有の宗教となりたりき

羅馬宗教は俗氣紛々として少しも美的感念なく只だに實際を重んじ形式に流れ祈禱の用語は一定しありて之を誤りなく誦せんか其靈魂の狀態如何に關せず敬神家と稱へられ神々の恩恵に浴すべき者と思惟せられたり畢竟するに羅馬人の宗教は全く外貌的にして些の想像なく感情に訴ふる事なきが故に宗教上の事柄に關して極端に走らざ

るを以て真正の羅馬人の義務をなしたりき彼等は不敬度を嫌悪する者なりと雖も又た敬虔に過ぐる事をも惡みければ基督教が始めてその目前に顯れ出づるや如何にも嫌はしきもの理解し難きもの排斥すべきものに見えしかは吾人此處に之を想像するに難からず舊世界の偶像教は種々の變化を経て豊なる發達進歩をなしたりと雖も畢竟するに到る處同種類のものたりし也則ち彼等は造物者よりも被造物を尊崇し且つ禮拜したるなり一神論者は只一人の神の外は凡ての神々を偶像として排斥したるに反して多神教徒は自ら信仰する神ならざるも神とし云へば盡く之を是認したり羅馬人は希臘オリンピアの神々は自らの神々と均しき者と思ひゼアスはジュピターへレはジュノと相均しき者となしたるのみならず東洋の奇怪極る神々と雖も敢て奇怪と思はざりきさればシイザーかゴール人の中にマーキ

リーマース及アポロを見出したるも斷りならずとせんや要之今や神々の團結こそ起りにき其結果は遂に一神教的神の思想を起さしめ抽象的惟一神教が多神教界中に其萌芽をあらわすに至りたりき即ち諸國民の混入が抽象的宇宙主義一步進めば基督教の宇宙主義を生出せるが如く諸宗教の混同が抽象的惟一神教一步進めば基督教の惟一神教を生出したる也此に至りて吾人は一層明白に羅馬帝國の存立の眞の意義は合同統一を成就するにありし事を知るアルノピアスが羅馬人を以て凡ての神の禮拜者となすも宜なるかな羅馬の國是は總ての宗教を寛容するにありき郡を征服するや其神を嚴肅に擁護して羅馬府に遷したり征服されたる國郡の神よ汝の住居をすて、我羅馬府に來れさらば我は汝に堂宇を建立し誓て禮拜を怠らすとは羅馬人が常に口にせし處の通用語なりし也羅馬人は征服したる土地人民をばそ

の好むに任して處分したるも神々に至りては寸毫も侵す事なかりければ亞典市人は其神アセチをスリヤ人はその特有の女神をユダヤ人は其神ゼボフを保持する事を得たり羅馬政府は政治上には中央集權の制度を固く執りて動かざりしも宗教界に於ては然らざりきされば國郡市町村各々の特殊の禮拜上の制度儀式を保持する事を得たる也然れども之は政策上しかなせしにはあらざりき何んとなれば他國の神は直に以て我儕の神なれば若し之を虐遇せんか禍を我羅馬に下すやも圖り知るべからずとは當時の羅馬人の均しく考へし所なればなり

りオーガスタス帝アレキザンドリヤ市民に布告して曰く朕が汝等の都會を破壊せざりしはセラピス大神の在せばなりと彼はまたエルサレムの聖殿に禮物を捧げ且つ犠牲を具へて自己の平安幸福を祈れり

征服したる國民より其宗教を奪去るは羅馬人の敢てなさざる處なり

しと雖も彼等は己等の神々を州郡に携へ行く事をも辭せざりき軍隊官吏殖民等はカプトリンジュピターを共に地方に携へゆきて之を祭祀し並に地方の神々をも尊崇しければ終には羅馬の神と地方の神との變奇極まる混合こそ生じたるなれ然れども事此處に止まらざる也地方に於て禮拜せらるゝ神々が羅馬府に移住したりしこそ至て奇怪なる現象なりし也

タシタス曰く價値なき不作法なるものは世界の凡ての部分より羅馬に輻輳し來りて尊敬せらるゝに至れり即ち全世界の神々は世界の都會に集中したりとタシタスの言ふ處によれば眞正の羅馬精神ある者は最初全力を盡して外神禮拜を斥け之を壓抑し拮据せんとため皇帝をしてしばしば勅命を發せしめたるも共和政の末路に遡りて既に發生したる神々の混合は破竹の勢を以て進み來り遂に全く其目的を遂ぐる事を得たり總ての國々が溶解結合して一塊と

なりたるが如く此に宗教上の溶解結合こそ現れ出でたるなれ歴史に其比を見ざる宗教の混沌體が國家的宗教に取りて代りたるは混沌たる宗教界より新生命ある世界を創造せしめんためなりと知るべし是等全体の進行は取りも直さず多神教の信仰の衰退を示すものとす何んとなれば若し多神教にして新鮮にして青年的勇氣を持続せんには斯くまで間斷なき動搖變化のあるべき理由なきを以てなり然れども吾人は此進行こそ一の強き宗教上の必用より起り來りて或る意味に於ては多數人民の歸依する多神教をして増堅固ならしむるに與りて大に力ありたる事實を等閑視せざるを要す即ち多神教の無数の禮拜儀式が一体となりて共同の敵なる基督教に反對したる也而して今まや羅馬の神々も稍東洋風になり來りたるが故に宗教上の必用を醫する點に於て以前より遙かに力ありければ隨て新信仰に抵抗する勢

力に至りても實に侮る可らず概言せば吾人は宜しく注意して基督教の生れ出づるや多神教世界の宗教上の活氣は既に死し或は全く腐朽しありたりとの説を信せざるべし勝利は一擧にして得られたるにあらざりき吾人は羅馬帝政の始め宗教の衰退に關する記事は概して誇大に失せりと信するが故に多くの點に於て根本的修正を加へざる可からずと思ふ者なり然れども是れだけは眞なり即ち衰退は既に始まり居れるも全衰全滅の進行は甚だ徐々なりし也何となれば斷へず大勢力の之を遮ぎり新進歩の時期來りて之が進行を阻みたりし事は共和政府の末路と帝政の時代とを對照し見ば直ちに明白ならん吾人にして若し當時の宗教上の眞相を知らんとならば先づ第一に一時代の信仰の一般状態を審に知る事の極めて難事たる事を記憶して着手せざる可らず此事たる同時代に關する數多の材料を涉獵し得るとするも

至難の事業たり況や吾人が有する材料と云ふも當時行はれたる文學の断片にして少しの連鎖なく言はい堀出しの遺物記録等の如きものなるに於てをや至て難事たる也

當時の文學には懷疑的理論萬能的の性質を著しく帯びたるは眞なりと雖も之れ以てあまりに眞を置くに足らぬ也何となれば文學はある特種の階級より産出するものにして一般民衆の信仰は其文學の言ふ所よりも強かりしや否やを保し難ければなり然らば吾人は賛跋銘等の記録を證據として立論せんか之又た十分に信を置くに足らぬなり何となれば遺傳的習慣に従て公文官書等には既に存在せざる信仰を書きあらはす事の常なればなりされば吾人にしてもし當時多神教界の宗教的生涯の眞象を窺ひ知らんとならば之等二種の材料を結合斟酌して觀察せざるべからず

當時偶像教は既に衰退を明に外部に顯したりと思ふは大なる誤なり否な腐朽の外面に顯れたる徴候は皆無なりき寺院は猶も屹然として其宏壯を保ち内亂のため兵燹に罹りたるものも既に美麗に再建せられて參詣者陸續として踵を接し祭祀は盛に執行せられ祭壇また祈願者なきにあらず神宣を請ふ者亦断えざりきデルヒーのピシア神及其他の神々は既に政治上には勢力を失ひたりと雖も尙ほ人民私事に關する質疑に答ふるを常としたりき犠牲を捧ぐるの風如何に盛なりしかはカリグラ帝即位の砌羅馬府のみにて三ヶ月間に十萬頭の獸を屠りて犠牲に供したりとの事實に徴して知るを得ん無数の銘賛は猶寺院及僧侶に措氣なく寄進したる信者數多ありし事を證す此方に或女神の渡御用の新しき神輿を調ぶる費用として五千弗を献する一士官あれば彼方にはリベル神に三オンスの重量ある純金の頸飾を献する

者ありし也此等寄進を録せる書類の今代に傳り來れるもの至て少數なるを考ふる時は吾人は以て献金の數寺院建立等に付きて寄附したる金員贈物の如何に莫大なりしかを推察するに難からず
 偶像教は未だ決して其生命を失ひたりと云ふべからず猶二三百年の生命を持続すべき希望を有したる也そは羅馬の政治及公共的生涯と相關聯しありて國家と宗教とは車の兩輪の如く相輔佐したればなり
 一私人としては既に神々を離れて自然のみを信する鏘々たる思想家すらも公人としては種々の祭典に列し外見威儀を正し敬しく之を執行し皇帝は親しく羅馬府のために清祓の式を舉行したり羅馬の貴族等は國教の禮拜儀式より内心既に離れて陰に之を笑ひ居たるも敢て之に反對する事なく反て陽に之に固着せるは以て公私の生涯に於て共に自家の利益となる事を知ればなり又宗教上の生涯と市町村制と

密接の關係を有したる事は羅馬府のみならず國郡に於ても亦然りき東部地方に於ては全く宗教に其基礎を置きたる數多の市町村組合ありて其目的とする處は共同の宗教上の祭典を厳に執行すと云ふにありきされば權柄を握る人々が之に關して大なる利害を感じたるは既に存在するものを保存するは取りも直さず自家の安全を保證する道なる事を知りたれば也
 當時民衆が宗教の存立する形式に一般に歸依し居りたる事は一點の疑を挾むを許さず何んとなれば彼等は概して宗教上の事柄に關しては常に保守的觀念を有する者なれば也都會に設立せられたる商人職工等の集會所埋葬俱樂部の如きもの、漸く社會に立て勢力を占むるに從て宗教上の性質を帯び來り各守護神を祭り集會を開くや必らず先づ祭壇に犠牲を供したりき都會の住民既に然らば地方人士が

古來の宗教に固着したるも少しも怪むに足らざるなり彼等は猶も單純なる信仰によりて傳來の神話を誦し種々の迷信に支配されたるは蓋し自然の數とす舊宗教が其勢力を保ちたるは又た家族に負ふ處頗る多し蓋し人の妻たる者母たる者は概して祖先より傳はれる信仰を重じ之を固執する者なればなり神祇は凡て荒唐不稽にして少しも信すべからずとて嘲り笑ひしシセロすら其妻の信心深さを見て至て自然よりと思ひて敢て之を變せしめんと試みざりきプロータスが理想的妻君を畫くや左の言あり曰く沈着にして婦人たるの謙徳を具へ父母に孝に夫に仕へて從順神々を畏敬する者即ち之なりと彼女は信心深かりしも迷信に陥らざりきとは夫が死したる妻の石碑に銘する最上の讚辭なりし也されば宗教上の義務を忠實に守り祈禱の時犠牲奉供式の時には必ず列席し寺院等に勵みて詣づる者は尊敬すべき婦人

と稱せられたる也

概して之を言はし男子と雖も傳來の慣例を離れんよりは寧ろ己の價する處を棄つるを得策としたり例之一家の父なる者が進歩したる思想を抱けるにしても冠婚葬祭の時は必ず慣例的宗教の儀式を執行したりされば富貴榮達の周邊を繞る時には神々を嘲罵したる輩と雖も一朝逆境に沈まんか急ぎ寺院に詣て犠牲を供したりとはルクレテアスの云ふ處蓋し正鵠を得たるものならんか而してブルタークの所謂内心は宗教上の儀式を疎んずる者も外面には之を尊ぶの風を装ひ勉めて世と相容れん事を之れ事とせるは當時一般の風習なりしなり舊宗教の衰微にして果して外面に顯れ出てたる形跡ありとするもそは甚た少なきのみならず殆ど認め得ざる程なりしと雖も夕景の暮色の如きもの至る處舊宗教の上にかゝれり彼希臘のペリクルスが威儀

堂々行列を亂さずアセナバルセナを祭れる大堂に詣で又羅馬共和政
 府の勇將猛卒が凱歌を奏してカピトリンジュビターに禮物を捧けた
 るの時代は既に去りて其跡を止めずなりぬと雖も尙偶像教徒の中に
 は信仰深き人々ありて驚くべき熱心を以て寺院に參詣し供物を捧け
 て祈禱文を誦したる者ありたり又人をして心神恍惚たらしむるが如
 き華麗なる禮拜を見ては感恩の涙にむせぶ者數多ありしや疑なしと
 雖も而も吾人は舊宗教の持續されしは信仰よりも寧ろ習慣てふ後楯
 を有したる故なりと斷言するを憚らざる者なり要之今や不可思議な
 る熱信は以て能く人の信仰を持續する能はざるに至りて沈思默考反
 省の氣風頓に人心を支配するに至れるは自然の數とす上流社會の不
 信仰は愈明白になり來りて漸く社會の下層に波及するに至り不信
 なる人々の中にも懷疑迷信犬に行はれ發達するに至りたれば單純な

る信仰の時期は業に己に過ぎ去りたりと知るべし而して舊宗教の神
 々に慊焉たらず競ふて新神を求めて之に歸依したりし者も暫時にし
 て其無能なる事前者と相異なるなき事を發見したるは是非もなき次
 第なり

此不信仰の來るや此處に年あり希臘に於ては哲學は既に舊信仰を奪
 ひ去りてアリストファチスの如きはオリンピヤの神々の事を劇場に
 演じて大に嘲けりたり夕に之を見て嘲笑したる人々も朝には供物を
 具へて之を禮拜したる如きは希臘人の輕佻浮薄なる性質を示す確證
 なりとす希臘文學哲學と共に不信仰をも羅馬に注入せるは恰も前世
 紀 *Manichism* 耀輝哲學の佛蘭西より日耳曼に入り來れると均しかりき
 インニアスは自家の所信を述べて左の如く言へり曰く余は天に神々
 の在るを信する者なりと雖も彼等は人類種族に少しも掛念する事な

し果して彼等は人間に掛念すると云ふこと真ならば善人は榮え悪人は滅びざる可らざるに現時之と正反對の結果を呈するは何ぞ之れ神々の我等人間に少しも關せる事なき所以なりと是は偶像教の信仰に對する有力なる反對論にして今日基督教に對するそれと相類似せるを見るべしケイト、シイザーの如きは共に立法院に其懷疑を公言し又た同時代の文學に徴するも教育ある人々の大多數は其心底に多少齷信仰に慊焉たらざる者ありしは明白なる事實とすルクレテアスは曰く神々は恐怖の子にして天意は一の幻想世界は分子の連合、混合、結合、人生は原始時代の生産物に過ぎずとプリニーは曰く宇宙に神なきは科學の確證する處にして只神として認むべき者は萬物の母なる天然之なりと彼又曰く何物も定かならずとの事より外に定かなる物は一もあるなし而して人間程哀れ慕なき生物なし又彼ほど傲慢なる者も

あらじ人生は幾多辛苦の合体にして其中最良のものは自殺し得る事之なりと子ロ帝の寵臣にして頗る現世的なるペテロニアスがピラエア叛逆に連なりたるこの嫌疑を受けて自殺するや血管を切開し流血淋漓たるに泰然自若として其友と談話し居たるは極めて重要な人生問題につきてなりしか否な輕俳浮薄なる問題に付きてなりし也彼は又た人をして狂歌を誦せしめ特に面白き個處に至らんか血管を再び閉鎖して其快味を十二分に味はんとしたり然れども吾人は總ての者がルクレテアス程熱狂しプリテの如く大膽なる不信に陥りベトロニアス程輕俳浮華に流れたりと云ふにあらず否な吾人は舊新仰を堅く維持せんと勉めたる人々のありし事を知る大歴史家タシタスの如き其一人なりとす彼れ思へらく神々は自然の法則を實施し萬事を司り未來を語るに前兆を以てする者なりとテオニヌアスは基督降誕に先

たつ事少時羅馬史を著して建國者ロミナスを極讚したるはロミナスが國家の基礎を多くの爲政家が好て口にするも敢て之を得ん事を力めざる神々の擁護に置きたるためなりと云ふにありき彼思へらく神々の好意ある時及所には凡てのもの盡く人々に最上の幸福を持參すものなりと數多の人は此思想を嘲り笑ひたりと雖も彼は少しも此信念を變ふる事なかりき

多數の者は中立の地位を求めて一般民衆の信仰を内心塵芥の如く嘲り笑ひたるも外面上鹿瓜らしく尊びたるぞ偽善の極みなるストラボ謂へらく道理を辨へざるの民は小兒の如く神話を喜び信する者なり世の一般民衆婦女子輩に高尚なる哲理を授け之によりて信仰敬虔の念を喚起せしめんとするは恰も樹に縁りて魚を求むるが如き不能の事なれば彼等の中に迷信を起して信仰敬虔の徳を養成せしむる

より他に方法あらず而して迷信は荒唐不稽の神仙譚によりて成立するものなり電雷神龍等は凡て舊神學と同しく一種の神祇に過ぎざるも世の建國者等か此等怪物を以て田夫野人の信仰に適せりとして承認したるは至て當を得たるものと云ふべしとセチカ曰く吾人は宜しく數時代の迷信が集積したる無數の劣等なる神々を敬ふべき也然れども此は寧ろ慣例に遵ふものにして決して眞實に之を敬重するに非るなり賢者が此等の儀式に列なるは神々を喜ばしめんためならで法律の命するがためのみとワロは此見解を組織的に分解して左の如く曰へり詩人又は神祇的宗教哲學者には自然宗教一般民衆には舊來の宗教と世人が教育ある社會に行はるゝを密教と稱し無學文盲なる下層社會に行はるゝを公教(小乗教)となしたるは畢竟此點に存すと知るべしセキスタインピリカスは懷疑家の泰斗と稱すべきか彼は曰へ

り人は何物をも知る能はず萬物は悉く不確なるものにして神々の存在も均しく不確なりされど吾人は習慣によりて神の存在を認む又彼等は天命を司るが故に吾人は之を尊敬するのみとイピキラスの説を奉ずる者と雖も悉く諸宗教を排斥したるに非ず概して冷淡なりしのみ彼等は本來神々の存在を拒まざりしも彼等一切の希望は現世にありて來世にあらず謂へらく一般民衆は神々を信して靜安なるを得べきも吾人教育ある者は之につきて心を痛め煩はすの要なきなりと然れども眞の中庸的神學は當時最も廣く行はれたるストイツク派の哲學に於て始て見るを得べし同派の哲學を奉ずる者は萬有是れ神也との思想より浮び出たる一の最高の神に數多の神々即ち舊來の神々を附屬せしめて信仰と哲學との調和を圖りたるがために彼等は無數の神犧牲託宣奇蹟善惡の兆魔法を有する諸宗教を是認し事宜によりて

は此等の儀式に列なる事をも辭せざりしと雖も内心常に一人の眞神を密に信仰したりき却説教育ある階級は如何と云ふに舊信仰は既に彼等の中に疎んせられ絶体的無神論及虛無説大に勢力を占むるに至れり而して多數の者は一種の唯一神教に到達したりと云ふべきか彼等は神性を具へたる第一主義を曉り得たる也かく多神教の潰解に伴ふて其後を襲ひたるは万有神教なりし事は自然の勢とす多神教の神々は多くは自然神なりされば此等合して一の宇宙神を成せるは當然なりストラボが自説として公言したりし信念は疑ひもなく數多の人々の抱きし處なりし也彼曰く一の最高の實在物は吾人々類を圍繞する處のものにして吾人の呼で以て天となし世界となし天地の理となす處のものなりし此に於ては吾人は知る此唯一神教中に基督教の教なる處の一の眞神の存在せる事を然も此神や保羅の所謂爾曹が識す

して敬ふ處の識らざる神たりしのみ偶像世界の人民は之れ以上一步をも進み得ざりき彼等が認め得たる唯一神教は依然抽象的にして活氣なく其神は人々が其胸襟を開きて祈り其名をたへて祈願し得る處の聖き神體にあらざりければ如何程廣く此信念が教育ある社會に傳播したりとするも全体より之を云はゞ畢竟勢力なき信念たるのみ隨て世道人心を利する事至て少なかりしは理りなりと云ふべし上來述べ來りし如く教育ある社會には懷疑の念大に行れ舊信仰は全く彼等の中に其形跡を留めざるに至れども猶小兒らしき迷信の其間に行はれたるは實にいまわしき事どもなりき立法院内にて自家を不信仰を公言する事を憚らざるシイザイすら馬車に乗するに先ち災禍の其身に起らざらん事を欲して咒文を誦するを例としたりき宴會の席上にて神々を愚弄したりしオーガスタスも朝起きて左足の靴を右足に

穿ちたりとて終日災禍の其身に落ち來らん事を恐れ又凡てのものを信せざるに至れるプリニーすら護符を信したりと云ふにあらすや一般民衆が第一世紀に當りて既に内心偶像教の信仰より離れたりと臆説は總ての事實之を非認す然れども不信仰が教育ある社會を貫いて既に一般民衆の間に其勢力を及ぼすべく着手したる事は争ふ可からざる證據の存するあり然も歴史家リウキ一の言ふ處によれば神々を冷遇するの風は當時まだ廣く行はれたるにあらざりきとかの美辭學を以て有名なるも自説を變ずる事をば少しも意とせざりしクキントリアンは公言すらく田舎人士中にも幾分か自然に關する智識を具へ又之を得ん事を求むる者頗に増し來れりとは是は決して賀すべき徴候にあらざりし也切言せば舊宗教に對する冷淡の情の廣く一般に瀰蔓したるを示す者と云ふべき也

然れども吾人は之と同時に上流社會の人士が舊宗教を維持せるのみならず倍盛大ならしめんと熱心盡力したる事をも忘る可らずオーガスタス帝は意を用ゐて國教の恢復を圖りたり内亂相次ぎ來りて騷擾止むなき時代に破壊されたるものゝ大部分を興して舊觀に復し寺院には修繕を加へたるもあれば亦新たに建立したるもありき僧侶を補充し祭祀祭禮を再興し昔時の神祇傳説等を涉獵蒐集し詩人ウワーチ川のものせし詩集には敬虔の精神全卷に遍しと云ふを以て益之を保護獎勵しオウキドが此運動を助けざるの故を以て酷しき逆遇を受けたりジュリアン系統の惡虐無道の帝王すら國教を維持せんためには法律の力と自家の實例とを以てすべきものなりとの格言を固守したりタイベリアスは身自ら至て冷淡なりしと雖も猶ほ官拜を熱心に執行し傳來の慣例禮節に熟達して少したりとも是より戻る事なき

を力めたりきクロイデアス戰勝を得るや感謝を捧げんため膝行して羅馬大廟の階級をのぼり一日惡兆の鳥ジュピターの堂上に来りてとまりければ彼は萬民を召集して嚴肅に清祓の式を舉行し親しく大僧正の資格にて立法院にて祭文を朗讀し萬衆みな之に和したりきテロ帝の信仰の一人の賤しき庶民より受けたる一小偶像に限られたるも猶ジュリアン家の此根本的主義を嚴守せりされば羅馬大廟の電雷のために破損を蒙るや神の憤怒を和げんため最と鄭重なる儀式を執行せるは敢て怪むるに足らざる也吾人は常に宗教を目して衷心的生命となし皇帝の勅詔等によりて決して喚起さるべき性質のものにあらずと思惟するが故に此等の盡力は無益徒勞の業なりと難するや自然なりと雖も事實大に然らざるものありて存す羅馬の宗教は儀式によりて成立せし者にして決して信

仰によりて成立せし者に非ず信仰は帝王の勅詔と雖も制定し能はざる者なるも儀式は能く之をなすを得べし而して此點に於てはジュリアン家の政策全く功を奏せざるなきにあらざりき然れども此處に吾人の正に留意すべきは偶像教が基督教の生出によりて一の新しき刺激を得たる事とす共和政府の末期と比較せば宗教も帝政と共に新勢力を得るに至れりと云ふべきか

偶像教が世人の想像する如く未だ全く其生命を失墜せざるの確證は當時現れ出てたる新式の禮拜に於て之を見るを得べし例へばアノナ女神の禮拜の如き然りとす之は穀類を供給する女神なりき即ち羅馬が其人民に穀物を給するの必要古昔より大に増し來りたるがために此處に新に右の女神を創造するに至りしなり而して皇帝禮拜の意義は此に至りて愈明白ならんとす

吾人は皇帝を神として祭る事を以て直ちに狂氣の沙汰諂諛の極みとなすが故に世に皇帝の神性を眞面目に信する者ありとは到底思ひ當らざるも事實大に然らざる者あり初めシイザーを神として祭りたるは人民之が率先者なりきオーガスタス帝は立法院の制定によりて正式に神と崇められたるが如しと雖も此制定に實權を賦與し其功を奏せしめしは人民一般の行爲なりし也されば皇帝禮拜を單に人間の愚が如何なる度まで極端に走るべきかを示すに過ぎずとなして之を愚弄嘲笑に附するは大なる誤謬と云はざる可らず皇帝禮拜は當時の宗教上の生涯にのみならず社交的生涯にも均しく大感化を及ぼしたれば基督教が多神教と衝突するに際して誠に重且つ大なる關係を有したる事を記すべき也

皇帝を神として祭る事は吾人の目には極めて奇に映すと雖も抑も其因

りて来る處は偶像教の思想の相異なる點に非ず東洋人は帝王を尊崇するの極神として是に奉仕したる事は一朝一夕の事にあらずある銘文之を證するが如くイヂプトに於てはトレシーイピアチスを男神女神の間にもうけたる神子にして尊崇し彼の像は至る處の寺院にありて祭祀等には他の神像と共に行列正しく昇きませされたり赫々たる功績を顯さんか人間と雖も神性を具ふるに至るなりとの思想はあながち希臘人の思當らざる處なきにあらざりき彼等の間に行はれたる英雄崇拜を思へ而して羅馬人は如何と云ふに其昔時ロミナスを神として祀りたる以來他に其例なしと雖も而もなほ祖先禮拜は一般に廣く行はれたりき而してかのシイザイの如く一般人民に敬愛せられたる者が一朝敵手にかゝりて其生命を無殘に失ふや人民擧て其死を悼み直にシイザイ神禮拜式を執行し祭壇をつくりて神として祀りた

る事及び内亂止む時なく人民其堵に安せざる時に當りてオーガスタス帝之を鎮服し再び平和を克復したれば彼未だ存生中に於てすら祭壇寺院を造營して彼を祀りたるも豈に敢て怪むの理あらんや皇帝禮拜は重もに地方に於て行はれたるは事實なり羅馬府に住する都人士は皇帝に接近する事甚だ多きが故に彼等の神性を信するは不可能の事に屬すと雖も地方に於ては大に然らざるものありて存す地方人士が皇室の神々を尊崇しロマ女神及オーガスタスのために寺院を建立したるは實に其至誠に出づ彼等が世界に平和を唱へたる權力ある者を此の如くにして崇めたるは蓋し其安全と文明とを彼に負ふ處至て大なるを知ればなり換言せば彼等の皇帝神を公に禮拜せるは畢竟彼等が羅馬政府の下にありて幸福安康なりとの事實を表明したるものとす而して是れ理由なきに非ず身奴隸より起りて今や自由の

民となり富巨万を累ぬるに至りたるフリードメンは商賈としても又
 は他の事業に従事する者としても帝國の平和を特に尊重せるは當然
 なるが故に熱心皇帝神を禮したり又軍人は嚴格なる訓練を受けて軍
 旗を尊重する事恰も大元帥帝皇を尊崇するが如く彼等の運命を左右
 する者は皇帝及其軍旗なれば之を神として敬ひしも敢て怪むに足ら
 ず衆庶は無知の中に舊神を禮拜したりしが如く亦た新神をも禮拜し
 教育ある者と雖も之を禮拜する事を憚らざりき何んとなれば其は善
 良なる羅馬市民の正になすべき義務にして愛國の精神之によりて振
 興すべし亦善良なる皇帝に對して感謝を表明する所以なれば也皇帝
 禮拜の深く人心に浸染したるはトラヂヤン戦争以來凡そ一世紀間國
 を治めて泰山の安きに置きたる叙聖文武なる皇帝の治世中なりき是
 は感謝を表する儀式にして古より傳來したるものなりとはブライニ

の言ふ處る數多の人がブレトー及ウワールを尊崇せるも均しく此
 理に由る

吾人が殊に讀者の留意を求めんとするは皇帝禮拜の儀式が政治上社
 交上に大勢力を占むるに至れる事とす之を爲すが爲めに地方の集會
 が皇帝の疑惑を招く事なく國家の平安秩序を紊亂する者として解散
 せられざるに至れり地方集會は今や主として皇帝神を祭る場所とな
 りぬ地方人士は此集會に委員として派遣さるゝ事を以て此上なき榮
 譽と思ふに至れり金錢を吝む事なく華美に準備されたる種々の競技
 に伴ふに壯嚴善美を盡したる祭典を以てするが故に人々の之を拜觀
 せんとして集まり來るもの實に無數なりき而して地方集會に政治上の
 勢力を回復せしめたる第一着手段は右皇帝禮拜なりき何んとなれば
 地方委員が一度一堂に相會するあらんか機會の起るありて議おのが

代表する地方の利害得失に關するあれば全力を盡して之を擁護するは自然の數なればなり斯くして羅馬帝國の嚴密なる中央集權制内に地方的勢力が再び發達しはじめて皇帝禮拜式之を支持したる也

皇帝禮拜の社交上に及ぼしたる勢力も實に侮り難きものありて存す皇帝禮拜の式は貴族的勢力のため長く壓抑の下に呻吟せる一般民衆も官途に就く能はざる者も舊神禮拜に加はる事能はざりし徒と雖も均しく之を執行し得たりしかば彼等の熱心は實に驚くに堪えたり

オーガスタス信徒會及クロデアス奉齋會のあるありて人々は自由に之に加入するを得べし社會にたちて再び勢力を得んとする者は幾ふて之に加盟したりき中等社會の再興したるも皇帝禮拜の賜物なり

けり

吾人の殊に讀者の注意を惹んと欲する事は此皇帝禮拜が羅馬至帝國

に共通の宗教となりたる事なりとす凡て他の宗教は純粹なる地方的分子を含有して各地各郡其奉する神を以て最上の神とし尊崇したるの熱心は實に驚くべき程なりきイヒーサスの市民にはデアナ女神よりも高大なる神なくパーガマスの市民にはイスキラピアス程尊重すべき神はあざりし也然れども此等の神は一として共同的禮拜をうる事能はざりしも皇帝神に至りては衆庶一様に之を禮拜したれば此に至りて前代未聞の共同的禮拜が起りたる也切言せば皇帝禮拜は總て他の禮拜を凌駕衰頽せしめたりと云ふを得べしメリト曰く皇帝の像は舊式の神々のそれよりも多く尊敬せられたりと西班牙の古き神祇誌中に記載せる神々に奉仕する僧侶の數は皇帝神奉仕の僧侶の數より遙に劣れり又亞弗利加にては皇帝神附隨の僧侶は其勢力に於て舊來の神々のそれに勝れる事殊に夥しかりき希臘は禮拜の最舊の

土地なれども皇帝の像は至る處に立てりテルヒにて其舊神を顛覆したるは主として皇帝神之が動機となれるに因すイリス、コリンス、スパルタ等にては堂宇を建立して皇帝を祀れりオリンピヤンゼアスの宮にはかの有名なる像と相並で皇帝の像相立てり舊信仰の新信仰と相混合したるは數多の方法によりしものと知るべしゴールに於ては皇帝神を祀るに舊來の神々より藉り來れる儀式を以てし舊尊新卑の識を受けたるアール僧侶すら皇帝禮拜には敢て反對を試みざるのみならず舊來の神々の中に一座位を設けて皇帝神を安置したりき舊世界宗教の發達は或意味に於て皇帝禮拜によりて其頂點に達したりと云ふを得べきか多神教の初て宗教上一の中心點を見出して益之を盛大ならしめんと勉めたるは即ち之がためにして今日まで彼等の全く知らざりしもの存在するに至りたる也共通的國教則ち是なり此

宗教こそ市民たる者は凡て奉せざるべからざる義務ありて之に反くは取りも直さず國事犯罪者たりし也他事に付ては如何に寛容なりしと雖も此處には少しの假借を許さず猶太人は宗教上には殊の外寛大なる處置を以て遇せられたる者と云ふべし羅馬の軍隊がエルサレムに入るや必ず其軍旗をば後に遺して町に入るを常としたりき是は聖き市に偶像を昇入るゝとの誤解を招かざらんためなり而も彼等は皇帝神をば禮拜せざるべからざりきアレキザンドリヤに於て一の會堂に皇帝の像を建立するや血腥き反逆を見たりきカリグラ帝令を下して己れの像をエルサレム聖殿中に建てしめんとするやもし彼にして弑せらざるに於ては大害を世にのこしたるや疑なし此に至りて發達し來りし基督教が偶像教と鋭き衝突を見るに至りたるぞ是非なけれ

クリスチャンが此神彼神何れをも禮拜せざるは猶恕すべきも當然拂

ふべき義務ある尊敬を皇帝に拂ふ事を躊躇するは到底恕すべきにあらず大多數の殉教者の運命を決したるは彼等が偶像教の儀式を棄て願みざるがためにあらずして皇帝神に對して焼香する事を拒みたるがためとす

皇帝禮拜は偶像教を強むるに共同的中心點を以てしたるのみならず其種々なる形式を合一したる功ありと雖も又其を弱めたる事は没す可らざる事實とす人々みな寺院を建立して祭る神々に相面して見ゆる事を得たりクロードアス帝菌に中毒して崩御するや證人を立て、彼れ神と變じ其靈天に昇るを見たりと誓言せしめたりセチカはクロードアスを稱讚して神となし之を祭るや華美を盡したりき其後暫くして彼れ新帝の師傅となるやクロードアス化して南瓜の群に入れりと題する諷刺文を世に公にして彼が神となりたりとの説を嘲けり書

中同帝在世中の事跡を叙述して之を痛く嘲罵したるのみならず崩御に關する事實をも全く明に記入したりきチロ帝諧謔を弄して人に言つて曰く菌は必ずや聖き食物なるべしそは之を食へるクロードアスは神となりければなりと羅馬府中には大に之を嘲り笑ひたりと雖も寺院を建立して此新しき神に捧げたるは地方と相異なる處なかりき則ち知る此は官制信仰の一部なりし事をチロ帝ポピアサピナの腹に一人の女子を舉げたるが僅かに九旬にして天死しければ之を祀りて神となし寺院を建立し供物を献じたりポピアサピナの死するや又た然りき然れども地方人士をして驚愕其なす所を知らざらしめたるは存命中寺院祭壇を營みて之を祀れる皇帝の一人なるチロ帝が公然舞臺にあらはれ來りて歌舞を試み種々狂言を演じたる後忝く跪て觀覽人の批評を乞ふを目撃したる時にてありき彼等地方人士の心に

如何なる感想をや湧出したらん思半ばに過ぐる者あるべし之等はもく何たる神ぞやとは彼等の均しく抱きし疑問なりしなるべしされば進んでは當時まで禮拜し來りし他の神々の信用價值をも並せて疑ふに至れるぞ是非なけれ

第三 外教と贖罪の希望

一般民衆が舊來の神々に信仰を置かざるに至りたるは外教が益入り込み來れるを以て見るも明かならん何となれば哲學的の信念は以て教育ある階級を支配し得べきも能く一般人民を支配し能はざればなり事情斯の如きに至れば凡ての宗教に對して全く冷淡に流るゝか或は全くの無信仰は以て堪え得べきにあらざれば舊時の神々を信するを止めて新しき神々を信するに至れるは新神の權力は以て舊神の權

力よりも一層強からん事を望みてなり羅馬人の宗教上の生涯は帝國の始に當りて大變化を來せる事は既に古老なる僧侶なく聖火を護りしかの嚴肅なるウエスタル僧も未來を語る巫女占考者も共に存せざるに至れるを以ても明なりとす當時羅馬府に遷座したりしシベル大女神に奉仕するゴールの僧侶は髪を亂して吠へ叫び荆棘を以て己れの身体を鞭ち流血淋漓人をして悚然たらしめ鏡鏡を高らかに打敲きよく一百の雞卵を献する者は秋季の疫癘より免かれえむべしと吹聴して市中を徘徊しイチプトのアイヌス神の僧侶は長きリンチルの衣を着け犬の面を被り手には種々の鳴物を携へ市中をねりあるき又た羅馬の貴婦人等は人々の賤しめたるユダヤ人の會堂に群り至れるも又た數多の羅馬人がユダヤ人の安息日を守りたるも共に大エホバの憤りを和げんとすの望に出づ要之カルデヤ人を始めとして星占者及東

洋の智識(即ち魔術の)を有せりと稱する人々は皆競ふて羅馬市に入り
 來れり羅馬の兵士も表面には固有の神々を尊崇せりと雖も潜に戦争
 より携へ來りし光の神(ペロシヤ起)を信仰したりき是を稱して宗教の
 大混沌と云ふ豈に敢て過當の評ならんや如何なる教と雖も若干の信
 徒を有せざるはなかりき即ち偶像教中にも最劣等のものなる廢物
 教も今や其姿を顯はすに至れりテロ帝はアスターテ女神を禮拜する
 に倦みて今や全く神を信する事なかりしと雖も猶献上されたる護符
 を尊崇したりき權勢は一呼以て世界に號令すべき文物隆盛其極に達
 したる一大帝國の主權者が一種廢物の信徒となる其餘は推して知る
 べき也

羅馬法律は外教に對して實に嚴なりきシセロは一個條の規則を引證
 して各人別々に神を有すべからず亦政府が承認を唱へざる限りは決

して新しき神亦は外神をひそかに禮拜すべからざるを示せり之は單
 に新教を輸入する事を禁したるのみならずを屋内に於て潜に禮拜
 すべからざる事をも嚴命したるものなりリウキーと云ふ處は稍や寛
 なるものが彼の云ふ處に據れば外教の儀式は單に公に守る事又神聖
 なる場所に於て守る事を禁したるに過ぎざりしとシセロの云ふ處と
 リウキーの言ふ處と全く相反するが如くに見ゆると雖も前者は嚴密
 に法律の指定せるを其儘に紹介し後者は一般の實行を紹介したるな
 りと見ば少しも差支なかる可し
 羅馬人は如何なる教と雖も直に之を禁する事を憚りたりき此點に於
 てリウキーの云ふ處意味なきに非ず即ち反逆を企つるも其口實を神
 の禮拜に托せんか逮捕者と雖も之を恐れはかりたり何人となれば
 惡逆なる人々を罰すに其中に神の權威を侵すなきを保すべけんやと

の懸念ありたればなりされば政府が酒神教を壓服するや劇烈なる非常手段を取りたるにも圖はらず敢て全く此教理を根絶せざりき何人にてても其良心に關する事とあれば執政官の許可を得て之を守る事を得たるも五人以上之列なる事を許されざりき是を以て吾人は知る外教に對する法律は甚た無力なりし事を何人と雖も此等法律を勵行せんとせざりし也

若し果して法律を嚴行せんとならば家宅に闖入して外教の儀式は屋内と雖も之を行ふ事を得ずと嚴命する敢て不法の行爲たらざりしと雖も之をなさいりしが故に外教は終に戸内より街衢に街衢より公共の場所に顯れ出つるに至れるなれオーガスタス帝が亞歷山ドリヤ府を破壊せざりしはセラピス大神の在せばなりと明言しながら羅馬府に在る其寺院を壞つ事を憚らざりき之は眞に矛盾の極と云ふべし國

郡各其特有の神に奉仕するは一般の承認する處なりしと雖も之は政治上に於る嚴重なる中央集權の政策と相容れざる者にあらずして何ぞ政治及國粹の混合は羅馬帝國にとりて至て重要のものたりしや疑なしと雖も宗教のそれも又至重至要のものたりしや智者を待て後知らざる也されば政府が百方手段を盡して外教を撲滅せんと力めたるも此の効果を奏する事なく急激手段を以てカルデヤ人星占者及ユダヤ人と羅馬府中より逐ひ攘ひたるも如何程速にアイヌス神及他の神の堂宇を閉鎖するも或は禁じたる禮拜に對する法律を再び勵行するも一度注ぎ入れる潮流は決して反流すべきもあらず次第に其勢力を増し來り百年の後に至ては羅馬皇帝親しくジュピターウエスタの堂と相並てアイヌス及セラピスの堂宇を建立し顯貴なる羅馬の貴婦人は手に貴重なる黄金のシストラ(樂器)を携ひてアイヌス神の行列に加

り或はリンチルの衣を着け跣足にて其堂に來り夜籠して自己の罪惡を潔め清淨無垢の身とならん事を勉めたりき
 吾人は今や最も著しき現象の前に立てり舊世界は從來尊拜し來りし神々を持あぐみ日に日に迷ひまごふに至れり安心立命の時は既に去りて搜求懷疑の時は來りぬ人々が新來の神々を搜し求むるに至れるは舊來の神々が約束せしも成就し能はざりし事をよく成就し得んかとの希望に出づ新來の神の原籍が遠ければ遠き程又其教義が古く且つ不可思議なればなる程人民が之に望を置く隨て大なりき何んとなれば是まで真正のものにして自己の望に副ふべしと思ひければ也就中吾人の注意すべき事は最多の信徒を得たるものは東洋の神々なりし事とす宗教上の潮流は東より西に流入したるは明白なる事實なり亞歷山大王の時よりして以來希臘羅馬の文物は深く東方に貫流した

ればオリンピアの神々はスリヤの奇怪極る神々及イチプトの動物神の傍に寺院を有し彼等の信徒を奪ひ遂には之を幽閉したるなれども今や東洋的思潮逆流し來りてスリヤ、イチプトの神々が希臘羅馬、ブルダニーブ地方に信徒を得るに至るたるは是また基督教傳播の道に準備したる也則ち舊來の神々よりも偉大なる神々を搜し求めつゝありし世界に眞の神が宣べ傳へられたるなれ切言せば人々は新しき神々を東方に得んとしつゝありしに我等の主イエスキリストの父なる神が東の方よりして世界萬國に布告されたるなれ
 吾人をして此重要なる運動を最一層詳かに研究せしめよ如何なればとて舊世界が其神々に持あぐみ惑ふに至りしか是れ吾人が研究せざるべからざる問題とす此事たる實に重且つ大にして吾人之を解説するに個々相離れたる原因よりすべからず又單獨なる個人的勢力より

すべくもあらず若し舊信仰にして果して尙活氣を帯び居たらんには
 懐疑的文學が一齊其嘲罵の鋭鋒を向くるも豈に之を顛覆し得んや蓋
 し此嘲罵の起りたるは舊信仰の顛覆と同時にあり此驚くべき現象を
 眞に能く解せんとならば以下の事實に注意するを要す即ち人々の此
 世に對する觀念が全く變化したる事隨て彼等の支配され來りたる根
 本的思想の全遷したる事とす神々は古今に至りて少しも變りたるに
 あらざれども彼等は既に人心に副ふ事能はざるに至れるは人々の思
 想全然變じ來りて神々に異種異類のものを請ひ求むるに至りければ
 也此變遷こそ吾人の宜しく明瞭に研究するを要するものなれ此に至
 りて吾人は殊更に多神教世界が基督教を受入れるゝやうに準備され
 るもの亦時機已に至れりとの眞意を覺るなれ
 舊世界人民の生涯は未來に向ふ事なくして現世にのみ向ひたる也其

根本的特徴と稱すべきものは生存上の快樂と現世の新陳代謝する榮
 華に耽り又人生の美に大に垂涎眷戀したる是なり不朽永劫の觀念は
 偶像教信仰が其活氣を保持せる間人心を支配せしなるも現世的觀念
 をば少しも變ずる事なかりき即ち死者と雖も猶ほ此世に關係を有し
 居るなりとは一般に信せられたる觀念なりし也されば人々が好んで
 死人を人足繁き街區に埋めたるも此理に外ならず羅馬府アピアン街
 に在る一列の墳墓は之を證してあまりあり此墓銘を見たらん者は恰
 も死人が存命中の人と關係を持續し居るが如く思ひしなるべし今左
 に二三の例を示さん此處にタイタス、ロリアス、マスキラスが路傍に埋
 められたるは此處を通過する者が平安なれタイタス君と挨拶し得ん
 ためなり又他の墓銘には死者と通行人との形式的對話を記せり左様
 ならウ井クターファピアン君よ神々が君の上に祝福をたれ給はらん

事を………旅客諸君よ君等は親切にもフアピアの墓に立寄りたる
 報いとして神々が君等を護り給はる事を又君等の行先歸途共に災禍
 の起らざらん事を而して冠及花等を余に齎し來りたる者よ君等は永
 く之をなし得るやうに存命せられん事を墳墓の傍を通行する人が地
 が汝の上に輕かれと云ふは一定の習慣なりき他の墓銘には何人にて
 も此塚の邊を通過する者はルヒナス君健在なれ地君の上に輕かれと
 云ふべし何んとなれば己れ自ら死したる時も他人より同様の敬禮を
 受け得んためなり又た犠牲神酒を墓上に捧げ小宴をその傍に張りた
 りき薔薇莖の花冠を墓上に供へ燈明を點じたるは死者が其光輝と薫
 する油の香とを喜ぶ者と思はれたるに因す隨て死の恐ろしき事は人
 に隠れて見えざりき彼等は死てふ觀念未來永遠てふ觀念に己れの心
 を煩す事なくして單に現世をのみ快樂に過せざるなり切言せば彼等

は罪惡の報酬は死なりと云ふ事を覺知せざりし也
 罪惡の觀念は未だ人々の心に發せざりき保羅の所謂蒙昧の時なりし
 也(使徒行傳第十)何んとなれば古昔の人の向ふ處は現世にありて來世
 にあらず隨て外界の事物を以て充され人間の内部に在る處のものに
 懸念せざりき之れ則ち技藝上の好尚殊に建築術彫刻術の發達の因り
 て來れる處とす人々は好んで裝飾をなし觀劇に耽りあらゆる觀世物
 典行物を嗜み華美なる祭典の行列を執行し人々が市民たる事を無上
 の光榮と考へたれば人間としての人は少しの價値なく靈魂の無限の
 價値を認め得ざりし也人若し全世界を得るとも其生命を失はば何の
 益あらんやこの主の御言は古昔の人々には隠れて見ゆる智言たり
 し也人々は其眼を内部に注ぐ事無く専ら外部にのみ注ぎたれば如何
 で其の裏に潜める罪惡を發見する事を得ん彼等は自然を深く研究す

る事なく單に其外形を觀察するに止まれり彼等は自然の美麗を賞翫し得たるも其壯嚴高巍を味ふ事能はざりきアルプス山の如き崇高壯大なる者は羅馬人の見て以て快哉を呼ぶ處の者にあらずして却て雅文雅致なる山水を賞でたる也基督教が入り來りてより始めて吾人の心に自然に對する眞の感念を開發せしむるに至りき即ち同教が吾人に教ふるに造化が吾人のために呻吟しつゝある事又吾人人類と其生涯に大關係ある事を以てしたれば也

今や起り來れる大變革は外部的のものより内部的のものに歸向するにありき此の生涯より來らんとする生涯に向ふにありき此變革の因りて來りたる處を遡りて求めばソクラテスの汝自身を知れとの數言の中に存せりと云ふを得べし切言せば古昔生涯の破滅は此金言に其源を發し此處より一轉して新生涯に入れるなり汝自身を知れとの希

臘大聖人の金言は天國は近けり悔改めよとの御言の前驅たりし也今や人は人としての價値を有するに至り眞の我は前面に顯れ來り本來の人格を發達せしむる事は至重の事となりたりき如何にせば余は幸福を得べき乎如何にせば余は平和を得べき乎とは思慮ある者の心に潜みし大問題にして幾百年となく誰一人として之に満足なる解答を能ふる事なく畢竟するに凡てが無益なりとの論結に到達したるに過ぎざりしに今や一轉して此點に達せしかば茲に至りて人々は神の恩恵によりて其救ひを得べしとの音信に耳を傾け得たる也

何人にてても幸福ならんと欲せば先づ智識を求めよ教育あり智識ある人は幸なるかな此人にこそ事物の隠れたる真相が現はるゝなれ智識ある人には害惡も其後を暗まして其形を止めずと然れども吾人は何物をも知り能ふか確定的に知るを得べきか是れ未解答の問題なりさ

れば一の哲學系統が起ると間もなく其後を絶ち他の系統起りしなり
 人ありてこれ眞理なりと唱ひし事も後進の士の否定する處となりそ
 の終局する處は全く懷疑團の世となりて凡ての眞理に失望するに至
 れり眞理は如何なるものぞとは豈に獨りピラト一人の間ひならんや
 當時多數の疑問なりし也シセロは長論文を草して諸大哲學家の人間
 靈魂に關する説を蒐集して之に自家の意見を附して曰く此等の説の
 何れが眞なるや神之を知らん何れか獨り眞實らしきかは實に至難の
 問題なりと噫人が眞理に達する案内者を得べくんば至幸なるべきに
 とはセネカの嘆息する處要するに人々は嚮導者を待望む事甚しき
 至ればプレト、ヒサゴラスの如き古昔の哲學者を其教導者と仰ぐに至
 る彼等嚮導者を求むる豈に嘗に希臘のみに限らんや彼等の搜索はイ
 チプト及印度にまでも及びたるは其國々の智識が希臘のよりも一層

確固ならんと信じたれば也奇怪極る信仰の遠隔の地より持來ざれ最
 初の中は人々の信任を博し得たりと雖も豈に永く持續するの理あら
 んや忽にして其騙詐なる事を覺るに至れりプレト曰く我等は大偉人
 の來るを待たん彼は神なるも若しくは神の鼓吹を受けたる人なるも
 而して我等宗教の義務を彼より習ひホームアの詩中の人格アセ子が
 デラムドムに云ふが如く請ふ我等の眼中より暗黒を除き去らんこと
 をと彼又曰く我等は今最も善き人々の説を採用せんのみ蓋し筏に
 乗りて大海を渡るが如く此等の説に便りて人生の危険極まる航路を
 たざらざる可からず即ち我等が眞神の道なる最も堅牢なる船を見出
 し之に乗て安全に航海し得るに至るまではと要之舊世界が其自ら造
 營せし船舶の至て脆弱なるを覺りて今や最一層強固なる船を求むる
 に至れる也則ち自家の智に迷はされて神の默示を渴仰瞻望するに至

れるなり
 舊世界に於て幸福に至るの道二あり一はイビキラスの所謂快樂説なり彼曰く此世の快事は飽くまで樂め是れ幸福に至るの道也と其二はストイツク派の萬事を棄てよとの勸告なりとす帝政治下の此派の代表者イビクタタスをして云はしめば克己抑制せよとなり曰く眞の幸福は精神の安靜に宿る人若し萬事を棄て、靜に運命の指定する處のものを取るに於ては何物として彼の安靜を破るものなきなりストイツク派の哲學は帝政治下の主なる學派にして嚴肅なる問題には多少同學派の分子を含まざるはなかりき幸福は快樂の中にあらざるを覺りて今や萬事を棄て、以て其中に幸福を搜し求めんとしたり前章既に云ひしが如く懷疑説も畢竟するに一の萬業説なるのみ即ち確固なる智識を得る能はず絶望の極疑を懐くに至れるを以てなり時世も

亦快樂に適せざりき彼等が抑制てふ事を聲を高して説くに至りしは昔時極めて愉快なりし世界も今や一變して次第に暗澹なる光景を呈するに至りたれば也
 希臘の盛時に人々か神廟を建築しヒデアス及ブラズテルスの像を建立して喜び勇めるの時は己に去りて一片の夢となり共和政府の隆盛治下に人々が其父國のために忠勤を勵みし時代は既に羅馬を去りて其形跡だになし今や皇帝は總てのもの、首長となりければグラツチスピラの如偉人豪傑を生ずるに一の餘地なし帝政初期にありては戦勝後間もなき時とて黄金財寶は恰も降るが如くに羅馬に入り來りければ人々は遊惰淫逸に耽り一見愉快絶なりしと雖も其内實は全く正反對なりきこれがために人々は満足せざるのみならず反て苦痛の源となれるこそ是非なけれ此不満の一の徴候と見るべきものは人々

は其昔し乳牛がバラテン丘にて牧され立法官等は身に獸皮を纏ひ牧場に座して國政を議したる當時を追慕するの傾向一般に行渡りたる事なりとす世界の富を塵芥の如く浪費して快樂に耽りし時代は忽にして其終に達しカリグラ帝テロ帝の如き帝王の治世にありては財産は勿論生命も至て不安全になり來たりければ短時間に於て出來得る限りの肉の快樂を食りし者又た世界の腐敗を愁嘆し凡て世に屬ける者は虚なり空なりとなせる者の數大に増し來りしも畢竟此理由に外ならずされば全体として見る時は人生觀は次第に厭世的に流るゝに至りし也

以上の如き厭世的思潮は希臘盛時に既に其端を開き何物が缺けありとの愁嘆の聲は微かなれども明瞭に聞くを得たりき詩聖ホーマーが人間の果敢なきを嘆つ何ぞ其聲の切なる彼等は木の葉の如く枯れ果

て、又歸り來らず人間程不幸なる者は他になかるべしビンダーは人間を以て影の如く消へ去る者となしイスキラスは人生を夢幻に譬へたれば第一幸福なるは全く世に生れ出でざる事第二の幸福は生るゝも直に死する事よりこの思想一般に行渡れるは敢て怪むに足らず而してソホクルスは此觀念を其著作中に記して悲嘆の調を深からしめたり

比ひなき最大幸福は全く人生を味はざるにあり次に幸福なる者は生るゝも最大速力を以て元來し處に歸り行く是なり此等悲哀の思潮は次第に其勢力を増し來り悲嘆の聲も漸次高くなり世を厭ふの情愈切なりスモニデス曰ひけるは悲哀の相次ぎ來る事極めて迅速にして其間空氣をも入れずと哲學の目的とする處は最早幸福にてはあらざりき人々は失望の極幸福を得んとは勉めざるに至れり

セチカ曰く哲學の期圖する所は人生を疎んずるにありと此點に於ても多神教は虚無絶望に終りし也而して最終の慰藉は自殺によりて自由此憐れ果敢なき浮世を脱する事ありきセチカ揚言すらく向ふの險崖を見ずや之に飛下する即ち自由なり向ふの海河井を見ずや自由は其深淵に座するなり向ふの枯れたる低き樹を見ずや自由は其處にかゝり居るなり汝の頸頭脛を見ずや此等は束縛より脱して自由に至らしむるの道なりと叙し來りて吾人は多神教の既に倒産したるの事實は此數言の中に最も明白に顯はるゝを認めずんばあらず凡ての幸福に失望したる世は自殺の中に慰藉を見出すより他に道なかりき亦此世に打勝つの方法は自ら其身を殺して世を去るのみなりき然れども誰か噫われ固苦人なるかなこの死の体より我を救はん者は誰ぞやとの叫聲が異教國中に發し來りて漸次高く強くなり來れる事を覺ら

ざる者あらんや

此世に於て幸福を得能はざるや益來世に希望を置くは世の常とす來世の觀念たる古ひの希臘人羅馬人の共に懐きし處なりしもそは恰も幻影の如くなりき彼等は現世のみ實なる者となせるが故に眞の幸福は此世にのみ宿り來世は暗澹として快樂なき下界なりと思ひきホーマーの作中かの有名なる人格ユーリシスは影の如き死人が生血を貧飲し暫らく蘇生するを見アキレスは陰府にありて王たらんよりは下賤の地位にあるも此世に存命せん事を願ひたりき人々は來世を考ふるだに震慄したり異教徒は其生涯を通じて死を恐るゝの觀念に驅逐せられたる也かの快樂をこれ事とせるアナクレオン歌ふて曰く我願は霜色に變じ我頭は白雪の如し麗はしき春は既に去りて一生涯の佳境存する處甚だ少なし我屢嘆聲を發するは怖ろしき陰府を恐るれ

ば也誠なりまことに恐おそるべきは陰府よみに下くだる事ことなり一度彼處あそこに至いたらば再び歸かえり來きる能あたはずと然しかれども現世げんぜが其約束そのやくそくしたる事ことを成就じゆうじゆする事こと至いたて少すくなく其弊害そのへいがいと空虚くうきよなる事ことの益々ますます感かんせられ世よをはかなむの念漸ねんぜんく増まし來きるに至いたりては次第しだいに來世らいぜを怖おそるこの念薄ねんはくらぎ行ゆきしぞ是非ぜひなけれ事こと情じやう此この如ごときに至いたれば此世このよに於おける生涯しやうがいは恰あたかも幻影げんえいの如ごとく觀くせられ眞實しんじつの生涯しやうがいは來世らいぜに至いたりて初はじめて求もとむるを得えべしとなすに至いたれり後世こうぜの快くわい樂らくも地上ちやうじやうの美みも人生じんせいの榮譽えいよも人ひとの心こころに跡あとを止とめざるに至いたり人間じんげんの脆ぜい弱じやくなる事こと又また其限そのかぎりある事こと凡すべて浮世うきよの事こと物は空くうの空くうなりこの知覺ちかくは次第しだいに増長ぞうちやうし來きり今いまや肉体りくたいは靈魂れいこんの囹圄れいごと稱しやうせられ先まきにアナクレオンの陰府よみに至いたるの怖おそろしき下くだり坂さかなりとして震慄しんりつしたりし死しも却かへて束縛そくばくを脱だつして自由じゆうになるの手段しゆだんとして稱揚しやうやうせらるゝに至いたりきシヤロ曰いはく我儕われらに初はじめて眞實しんじつに生活せいかつするは死後しごにありと又また死しは惡あしきものに

非ひずとは美辭みじ學者がくしやの口くちを極きまめて討論たうぎんせし問題もんたいなりき人ひとの肉体りくたいは靈魂れいこんの旅亭りよていなるのみ眞まことの我家わがやは來世らいぜにありとの思想しきうは數度たうどセチカセチカの心こころに浮うびし處ところとす否いなな初代はつだいの基督きりすと信徒しんたの如ごとく死しの日ひを以もつて永劫えいけつの誕生たんじやう日ひとなせるも彼かれなりき此世このよの榮譽えいよが人々ひとびとの眼めより消きへ去さりて其後そのあとを止とめざるに至いたれば來世らいぜの觀念くわん愈い明白めいぱくとなり現實げんじつとなるは自然じぜんの理りとす吾人われは其當時そのたうじの文學ぶんがく美術びじゆつの作さくを見るみるに來世らいぜを快樂くわいらくの世よとして畫かきたりし繪畫くわいがを處ところ々に散見さんけんし得えべし即ち宴會えんかいを開ひらきて死ししたる靈れいが鬼神きふしん英雄いゆう聖賢せいけんの輩ともと一堂いどうに會あひして喜よろこびさめくの狀じやうをあらはしたりシヤ可か曾かつてスピラの夢ゆめと題だいする著ちやくに於おいて同どう様に來世らいぜを畫かけりセチカは之こに極彩色きよくさいしきを施ほしたるのみブルタークは神我儕かみわれらの首領しゆりやうたるべし王者わうじやたるべし吾人われは常つねに神かみと密接みつせつして倦うむ事ことなく熱あつき希望きぼうを以もつて得えも云いはれぬ人ひとには説ごきあかし難がたき程ほどの美みを見るみるに至いたるべしとて喜よろこび勇いさみた

然らば現世界を措て他に世界あるやとの問題なり多神教は全く之に答ふる事能はざりき多數の人々は厭世的句調を以て否と答へきシイザ一嘗て立法院に立て平然として公言して曰く現世以外には苦界もなく樂境もある事なしと而してケートは此言を賞讃して曰くシイザ一が本院に於て人の生死に關し演説をなし下界に關する世の誤説を駁したるは實に美なり秀なりと墓誌銘等を見るに使徒保羅が多神教徒には希望無しと公言せしも理りなるを認む彼は永眠につけり彼は永き休息に入れり余が未來に生を保たざるべき事は眞也誰にても之に反言する者は虚言者なり死の爲めに倒されたる我等は腐蝕して以て死骨死灰に變ずるのみ其他は知らず余は無なりき而して今や又無なり之を讀む處の者は飽くまで飲食し快樂をなし盡し而して來れど

之れその一般也ブリニ一の云ふ處は全くの絶望と稱すべきか曰く死後再び生を得るとは何たる愚語ぞ陰府の亡影天國の靈が依然感觸を持續すると云ふ果して眞ならば被造物は何處に行て安息を得べきぞ死よ死よ汝は人間の最大幸福を剝取る者なりルクレアス曰く下界の恐怖は吾人宜しく速に驅除せざるべからずそは人生を荼毒する事極めて酷しく總ての事物に死の暗黒を附着せしめ一の快樂をも純粹に遺す事なしと之れ乃ち虚無を以てその慰藉となしたる也彼又曰く吾人が生存せざるに至らば何物として吾人の感情を刺激し能はず天地大海合して一となるも吾人の平安を妨ぐるものなき也と然もブルターク曾て謂ひしに非ずや曰く下界の恐怖に代ふるに虚無墮滅の恐れを以てするも其得る處果して幾何ぞや之は暴風雨に遇ふて恐怖せる船客に對て汝等靜穩なれ船は直に沈没すべければなりと云ふか如

けん理不盡の極ならずやと他の人々は死しては萬事休むものなるや
 否やの問題を曖昧模糊の中に葬り去りたり有名なる刀圭家カレンカ
 不死不朽を是認せざるも敢て之を否認せざりしは偶ま以て萬衆の輿
 論を代表したるのみ而してタシタスかアグリコラ傳中に智者が想像
 する如く死後敬虔なる人靈が入るべき場所ありとなれば世の大人偉
 人の靈魂は其肉体と共に消滅せざるなりと云ひしは實に情感逼り來
 りたる結果とも稱すべきか今や娛樂財産否生命さへ不安心になり來
 りたれば人々は益來世を渴仰するに至れりと雖も彼等は未だ來世に
 至るべき門戸の關鍵を見出し能はずして苦しみもがける時に當りて
 「今キリスト死より甦へれり罪惡の價は死なり神の賜物は我儕の主イ
 エスキリストに於て賜はる永生なり」どの説教を聞いて大に其心を
 動したるぞ理りなれ無數の信者と殊に教育ある輩をも基督教に導び

きしは蓋し同教が來世に關する疑問に確答を與へ且此世に失望した
 りし人々に永生を希望を賦與したるに因す
 來世の問題に次で他の問題の起りたるは必然の數とす即ち果して來
 世ありとすれば人々は如何にして之を得べきや又如何にせば幸福な
 る者の交際に加り得べきか此問題に伴ふて罪惡の感念大に起り來り
 たりしも吾人をして忌憚なく云はしめば舊世界は少しも罪惡を覺知
 せざりしと云ふを得べし舊世界は缺乏不幸及人生の無常を嘆したる
 も人性の腐敗を覺らざりき詳言せば神を離れたるより來りし罪業の
 極て惡むべき者なる事は舊世界の人には隠れて見ぬざりしに今や此
 點に於ても大變革こそ起りにきセチカが人間の邪惡を論ずる點は使
 徒保羅に酷似せり曰く我儕人間は凡て罪を犯したり其中には自ら輕
 重あらん即ち故意に犯したるもの已むを得ず偶ま之を犯したるもの

或は迷ふて其所爲に出でたるものもあらん而して我儕人類は過去に於て罪を犯したるのみならず死に至るまで罪を犯す事を止めざるべし道義地に墜ち腐敗跋扈すとは我等祖先の嘆せし處たるのみならず今我等の慨する處今後子孫の慨嘆する處なるべしとセテ此原因を人間の性に歸して曰ひけるは人間の心は素より邪にして稍もすれば禁せられたるものを犯さんとす我等の罪惡は我等の表面にあらばるものにあらずして我等の衷に潜み居りて我儕の靈に附着するありと而してブルタークは頻に性惡説を唱へて曰く物として一も原因なくして起るものなき事明なれば善は惡の因なる能はず故に善惡共に各其特種の起原なかるべからずと此説は今や廣く弘まり來りて人間は其現狀にては到底幸福なる者の社會に加はる能はざるも一旦きよめられ罪より脱し再生したる曉には之に加入する事を得べしとなり而

して人々は舊神及其信條の極て不完全なる事を感じりオリンピアの神々は富み榮へる者の神にして人々が現世の美安に耽りしうちは満足を與へたりしも今や人々が罪を知覺して救済を渴望するに至りては其需要に應ずる事能はざりしや明けしカピトリンジユピター、ウエスタウキクトリヤ等は國家的神々にして人々が羅馬市民たるを此上なき榮譽となせし間は満足を與へたりしも要するに彼等は外貌上の神たりしのみされば人々が己のが心中に眼を注ぎ其邪惡なるを覺りて平和を求むるに至りては此等外形上の神々に信を置きて平安を得る能はざるに至れるぞ是非なけれ多神教徒か舊來の神々に惑ひて意哀暗澹なる東方宗教に専ら其心を傾け齋戒沐浴難行苦行をなしたるも畢竟するに自己の贖罪を全ふせんためなりし也羅馬の僧侶は神と人との仲裁人にてはあらざりき彼等は單に儀式の精通者たるのみ之

に反して東方宗教には神と人との仲裁者たる僧侶ありて常に其義務を怠らす忠實に盡しければ人々競ふて之に歸依せるは恰も水の低きにつく如くなりきは是れぞ東洋的潮流の西洋に注入せし所以なれ是れぞ東洋宗教が人心の上に主權を握るに至れる順序あるなれ斯の如くにして贖罪の道は遠からずして開けんとの豫望は益廣く流布するに至りき之に對しても人々の視線は東方に向ひたるは東方よりして其援助の來るべき理由ありにし存す今や黄金時代は既に去りて白銀時代是に代り之に次ぐに堅鐵時代來れりと雖も是又過ぎ去らんとす次で起るべきものは新時代なれば土星再び天体の政治を司りて黄金時代は再び循環し來るべきなり然れども此等の豫想は幾分かユダヤ的色彩を帯べるものにして其源をヘブルの豫言に發したるは多少明に認むるを得べしスイトニアス及タシタス共に當時一般に行はれたる風

説を傳へて曰く東方人は權勢を得るに至り世界の管領はユダヤ人に委ねらるべきは運命の神の定めたる處にして動かすべからざる真理なりかのタイタスがエルサレムを滅さんとして率ゐる行きし羅馬兵の中にも之を信じたる者ありて滅さんため來りたりし聖き市を見て迷信的恐怖を抱きたりき而して愈之を圍むに當りて兵士の脱走せる者數多ありき此は彼等が斯く嚴重に圍みたる市も非常なる神の援助を得て遠からずして自由を得約束の天下掌握の大任を授けられんと信じたれば也詩人ウワールが其牧羊詩第四篇に黄金時代を回復すべき一人の嬰兒を詠したるの筆法は直接關接以賽亞の第九章及第十一章に大に據る處あるもの、如しそは小兒天より降り地に平和行はれ稼穡せずして地は豊かなる賜物を産し家畜の群は獅子を恐るゝ要なく牛は軛を取去られ葡萄を作る人は勞くに額に汗する事なしと是ぞ約

東のメシヤを賛したる辭にあらざるなきを得んや
以上叙し來りたるが如くにして將に來らんとする救済の豫報はイス
ラエル民族よりして異教國世界に傳りたるなれ今や吾人は未だ研究
せざりしと雖も當時宗教上の動力として實に重大なる關係を有した
る分子即ちユダヤ教に説き及ぶべき順序に達せり

第四 ユダヤ教

イスラエル民族の使命は二重なりき一には基督教會の生産地たり又
一方には基督教の爲めに道を異教國中に準備するにありき一瞥せば
此等一個の事は其本質より相反するが如しと雖も此明なる矛盾もイ
スラエル人に於て能く調和したる事は驚くべき事實とす基督教の生
産地ならんためには其地に住む所のユダヤ人は神の選民として凡て

の異教人民より離れ之を斥け敵視して神の默示を有する者又モーセ
の掟を通じて其意を示し給へる生きて居ます一人の神を知る者他に
なしとして傲然天下を睥睨したる所以亦此に存すユダヤ人が基督教
のために道を異教國に開拓し得んためには彼等が散亂して異教人民
の中に生活し斷へず交通をなす事甚だ重要なりし也彼等が其住所と
して附與せられたる國は殊に此目的を達するに適合したりパレステ
ナは山海砂漠等に圍まれたる一の幽地にして之を例へば恰も一の庭
園と稱すべきか然れども四通濶達他の國々と交通すべし又世界の大
都會に至る事實に容易なりしなり地勢實に適せり然らば人民の性質
如何んユダヤ人の性質は此目的を達するに於て眞に適したりと云ふ
べし彼等はい國民として著く其個性を有すると同時に宇宙性を賦與
せられたる者なかるべし又他の國民の中にありて其固有の特性を堅

く保存し排他自尊の風を維持したるものユダヤ人を措て他になかるべし又た至る處に寵を傳し其境遇に應じて身を處するの術を知りたる者彼等を措て他になかるべし彼等は凡ての地方に市民として居住し至る處に己を利するの道を講せりと雖も常にユダヤ人たる事を失はざりき神嘗てアブラハムに宣はく汝の國を出で汝の親族に別れ汝の家を離れて我汝に示さん其地に至れと是れ抑もユダヤ國民の歴史の始なり詳言せばユダヤ歴史は分離に初まり幾世紀となく神が其選民に對して處したる方法も畢竟するに彼等を個立せしめ幽居せしめて其國民的特性を涵養建作せしむるにありき斯の如くして遂に一の變革起り來りて彼等の散在を速ならしめたり變革とは何ぞや他なし彼等の捕れてバビロンに携へられたる之なり是ぞ決着點なりし也此時よりして離散的ユダヤ教が顯れ出で從來のバレステナ的ユダヤ教

と兩々相對するに至りたるなれ全國民の禮拜儀式の源なる聖殿に對して儀式よりも教義を重んじたる會堂起りヘブル語の舊約聖書に對して希臘譯の聖書相出でモーセの法律預言及ダビデの詩篇を異教徒に紹介せりバレステナ的ユダヤ教はその聖殿及希伯來語の舊約聖書を以て優然大勢力を有し萬天下に散在せる同國民無數の仰望の中心點たりし也離散的ユダヤ教は會堂と希臘譯の舊約書とを以て弘く萬國民に傳播したりければイスラエル人が神の使者として異教世界に主の福音を宣傳するに際して大なる便利を得たりし也

バビロンに捕虜となりて携へ行かれたるユダヤ人の中歸國したる者は只其一部分のみなりき大部分は解放の後と雖も依然バビロンに止まるか或は他國に流寓したり此數次第に増加したるは一は軍時捕虜となりて運び去られ勸業に勵み羅馬人も此等迷信深き人民を如何と

もなす能はざるが故に遂に自由を與へて其國に止まらしめたる者又は利を獲んと目的を以て人口の溢るゝパレステナを自ら離れて他國に流寓する者によりてなり斯くしてユダヤ人は全馬羅帝國中至る處に散在し否其範圍外にも其足跡を認め得べかりしなり地理學者ストラトボ曰くユダヤ人民は既に總ての市町に入りこめりされば世界の住み得べき處一として同種族を受取らざるはなく又彼等によりて所有せられざる處を見出す事實に難しと彼等がパピロン及東部スリヤ等の如き東方の國々に數多住居したる事は自然の數とすイチプトにては彼等は全人口の八分の一以上を占めレオントポリスにては彼等は本國なるユダヤ人の承諾せざるに係はらず自ら一の聖殿を建立したりかの商業上の中心たるアレキサンドリヤ市にては彼等は五區の中二區を占め亦他の市町に散在せる者を數ふれば實に枚舉に

遑あらずパレステナの對岸に位する大都會アンテオケに住居する者また夥しかりきアンテオカス大帝會て數千のユダヤ人をフリギヤ及リデヤに移住せしめたる事ありしが漸次繁殖して小亞細亞に進み來り遂に希臘に至りたる也エリシヤのトラス亞細亞のイヒーサス市の如きはユダヤ人を以て充され實にユダヤ生涯の中心とも稱すべかりしユダヤ殖民地は希臘は勿論北部亞弗利加シリイ太利亞等にも散在したりきオーガスタス帝統御の時羅馬にてユダヤ人の數四萬なりしがタイベリアス帝の時殆ど八萬に達したりき彼等はタイバ河の彼岸にある第十四の區とアピアン街道の起點なるポータカベナに程近き市の一部分を占めたりと雖も彼等の住宅は又羅馬市中最も貴族的部分にも見當られざるにあらざりき彼等が七ツの會堂を羅馬府中に建てたるは人の能く知る處なるも其他にも建立したるもの

ありしや疑ふべくもあらず其他スベール否ブリテン地方にも
 其歩を進めダニープ地方にも彼等が居住したる事は近代發見したる
 第一世紀時代の彼等の墳墓地によりても明白なりとす
 ユダヤ人の主なる職業は商業なりき小賣行商特に小金貸業の如き
 は大金の取引は當時の銀行家とも稱すべき羅馬の勳爵士の手
 き殆ど全く彼等の掌中にありき(彼等此業を營むや實に其特性を顯し
 て狡猾敏活を以てしたるが故に小亞細亞の市町民が其帝王に己等が
 ユダヤ人のために全く金穴を瀧み竭されたる事を哀訴したり又卸賣
 業の如きも全く彼等の掌中に歸したる地方數多ありたりアレキサン
 ドリヤ市にては彼等は穀物業を其一手に占め而して遠き東洋諸國に
 も手廣く商業取引をなしたり要之金の儲かる處にはユダヤ人の居
 らざる所なかりき吾人は羅馬府に於てはユダヤ人が詩人として學者

として俳優として否な歌手として散在するを見るされば詩人ジュウ
 キナルがユダヤ人は凡ての物を商ふと云へるも敢て不當に非ざる也
 例へ詩人ジュウキナルの著中にはユダヤ人を以て乞丐の徒となせる
 も即ち父がガラスの破片及紙屑類を買廻り子はマツチを行商したり
 と雖も富巨万を累ねたる者少なからざりき而して彼等が重大なる特
 權を得るに至れるは一は彼等が蓄積したる富の勢力と善く其政府の
 政令を遵奉し其役務を唯々として盡したるにあり(内心其國の全体の
 制度に對して不服にして其利害如何に頓着せざりしも)彼等は兵役を
 免せられ法廷と雖も聖日には彼等を召喚する事能はざりき彼等の受
 けたりし特典の實に大なりし事は彼等が穀類油類は不潔なりとして
 受取らざるがために市役所は金錢を以て彼等に拂ひ其日偶ま聖日に
 際せんか他日を選びて之を願與したりき加之彼等は自由に宗教上の

儀式を執行し至る處に會堂或は禮拜場を設け首領を戴ける獨立の社會を組織し大に自治政を擴張せるが之は單に宗教上の事件に關したるのみならず多々他の事を含みたるは彼等が其中に住居する異教徒より宗教上及國体上分離し在りたる結果なりとす

全天下に散在せるユダヤ人は相互に至て親密なる關係を有し且つユダヤ教の本山なるエルサレムと深き聯絡を有したりきその住居する處如何に遠隔なるもユダヤ人は神の選民の一員たる事を信して全國民結合の絆を鞏固にせん事を努めたり彼は毎年聖殿税を拂ひ捧物及献上物をエルサレムに贈り一生の中には少くとも一度は必ず逾越節を守らんため聖き市なるエルサレムに上るを常とせりエルサレムに在る高等院は毎年散在せる會衆に祝祭を詳記せる曆を送り重大なる決議ある毎に之を通報し且つユダヤ人全体に關する事件は小大漏

さす之を彼等に通報する事を怠らざりきユダヤ人は商人として遠く旅行するが故に一組合の者が來りて其教勢を話さんとすれば彼は自由會堂にて話す事を得たり要之彼等の組合が如何に遠隔の土地にあるも本部の一員たる事を失はざりければ一組合の損害は取りも直さず全体に影響するが故に之を擁護するがためには彼等は一齊に叛旗を翻す事をも辭せざりき而して彼等の之をなす極めて巧みなりし事は彼等は一般に嫌惡せられたるにも係はらず凡ての羅馬の役吏否な執政官にすら忌み憚られ尊敬せられたる事によりても明白ならん

是を外にしてはユダヤ人は常に惡まれ侮られたり彼等のなす所行ふ處は異教徒の眼には變異不可思議に映したる也彼等は總ての點に於て他の國民より全く異なれり若し吾人にして歴史上比類なきユダヤ

人を眞によく解せんとならば宜しく異教徒が彼等に下したる判断に注意するを要す如何に荒唐不稽の傳説が彼等に關して流布せられしよ彼等はクレート島にあるイダ山よりおこり來れりとかイヂプトより放逐されたる癩病人の末裔なりとか彼等が沙漠に漂流し大に水の欠乏を感じたりし時驢馬ありて一の泉を彼等に教へたるが故に彼等は驢馬の頭顱を神として禮拜するなりとか種々雜多の流説ありたりタシタスはモーセがユダヤ國民を他國民と分立せしめんため人類の凡ての習慣風俗に全然異なれるそれを彼等に答へたるなるべしとて曰へるやうユダヤ人は我等が以て神聖となす所のものを褻瀆となし吾人が賤しむところのものを貴ぶとユダヤ人が斷食をなし豚肉を食ふ事を敢てせざるを見て羅馬人は大に之を笑ひ嘲けりたり又彼等が聖日に安息する事を以て怠惰の極なりと解したる事はジユウキナル

の言に徴して明なりとす羅馬人の殊に片腹痛く思へる事はユダヤ人は偶像の前に跪く事なくして禮拜せる事なり是を異教徒の眼には輕信迷信の甚しきものと見えたりユダヤ人は其れを信じ得べげんとはホレスが全く信するに足らぬものに對して用ゐたる言なりきユダヤ人は斯く一般に嫌惡せられたるは彼等が異教徒を憎惡したるの結果なりし事は疑ふべきもあらず彼等は嘲られ罵られたり何んとなれば彼等も異教徒を目して不潔なる異邦人として侮蔑したりさればなりユダヤ人は大に自尊の念を有したり彼は神の選民の一員にして盲目なる異教徒の夢想だも感せざる神の默示を有する者は余のみと思ひき此自尊の念の益々盛になりたるは彼はメシヤの來臨てふ希望を抱けるがためとす彼信すらく余や永からずして全世界の相續者たるべき也汝等異教徒そもく何たる者ぞ彼は異教徒と相面接せる

時にすら憚る事なく此希望を公言したり然れども彼等(ユダヤ人)は現に奴隸視せられ壓制せられ名状すべからざるを悲境に陥りありたるが故にかの倨傲尊大なる羅馬人の眼には此不潔極まる乞食の徒が此の如き希望を懐くとは夢にだも知らざりしならん實に滑稽の極みといふべし吾人若し羅馬帝國當時の記者がものしたる著作を一瞥せんか割禮を受けたるユダヤ人に對する戯話諧謔を至る處に散見する事を得ん彼等の至る處には人々蟻集し來りて彼等を嘲笑したり彼等が會て劇場に至りし時彼等は酷く扭ぢ廻されて笑ひさいめかれたり彼等が會て人足繁き街區に出でしとき鉄拳棍棒忽ち其頭上に舞ひたり

異教徒がユダヤ人を侮り惡むの情益酷しくなりしは敢て怪むに足らず何んとなれば彼等はユダヤ人の勢力の日に盛大になりゆくを見る

に至りたれば也セ子カ會てユダヤ人を評して曰く被征服者が今や征服者に法度を與ふるに至れりと而して當時は既に異教徒が其舊神に満足せずして外神及密教等の償贖の法によりて平和幸福を得んと搜し求めつゝありし時なれば皆喜んでユダヤ教を歡迎したり此教たる賢哲の士が教育ある者のみの密教として教へたる一神教なるも今や一般人民の宗教として世に顯れ出てたりユダヤ教には異教の荒唐無稽否な不道德なる信條に反して實に高尚なる靈性上の信條あり此教には神の默示捧物及償贖の道完備せり

要之萬事實に奇妙に福音に對して準備せられたりきパレストナが全世界に對する恰も各會堂が各市に對するが如くなりし離散的ユダヤ教の助けなくんば如何で此幼き基督教が頑として屈せざる大磐石の如き異教世界に其道をなすを得べけんや幼き基督教が全羅馬帝國

中至る處に安全なる航路を見出し急速力を以て傳播せるはユダヤ教
 之が前驅をなしたるに因るユダヤ教が占めたる主なる場所は取り
 も直さず幼き基督教が占めたる主要なる場所なりし也加之吾人は
 宜しくユダヤ教が獲得したりし特權は其始に當りて基督教會に對て
 裨益する所甚だ大なりし事を記憶すべき也何んとなれば異教徒が基
 督教をユダヤ教の一派として思考せし間は彼等は同教を寛容したり
 ければなり換言せば基督教なる若木が暴風雨に堪え得べき程の力を
 得るまではユダヤ教其楯となりて之を守護したるなり
 然り時は既に滿てり舊世界は自ら基督教を産出し能はざりしと雖も
 其れを受入るべき準備は既に整ひたりき希臘羅馬に於ては人間の精
 神が其自らの力を以て成就し得べき處のものを示したり即ちそは赫
 々たる大事業をなし遂げ得たりと雖も一事の將に成し得ざるものあ

り何ぞや曰く人靈が長へなる神に向ふ處の渴望をよく醫し能はざり
 し事なりとす宗教としての異教の終末は實に不完全なる者にして全
 く絶望の終りなりし也詳言せば人間は何物をも確實的に知る能はず
 とは凡ての疑問の終りにして畢竟最後の慰藉は自殺にありしのみ然
 れども異教が將に消滅せんとするに當りて神の備へ給ふべき新天新
 地に接觸したり而して異教徒を導いて此新天地に紹介したる者は實
 にイスラエル民族なりし也彼等は將に望まんとする者のために其道
 を直くしたる前驅者たりし也此に至りて吾人は手に取るが如く人類
 の歴史に於る万事の到着點なる神の約束は凡て是れなりアーメンと
 なる我等の主イエスキリストに存したるを見るは實に恩恵に富める
 神の攝理なりし也

第二章 多神教界の道德上の状態

我儕も前には愚なる者順はざる者迷るもの諸般の慾と樂の奴隸と爲るもの恨み妬みて日を度しもの惡べき者また互に惡あへる者なりし也

第一 信仰と道義

信仰定まらざるに至れる世は道義を説く甚だ切なるもの也例之耀輝哲學（第十九世の始に大に基督敎を）の盛なる當時代に於ては口に道徳を説く者實に無數なり浩瀚の倫理書洪水の如く漲る許りの道話道歌養徳問答書等數へ來らば吾人は實に其際限なきを見る然れども此中何物が欠けありとは一般に感じたる處にして之を否認せんとはしたりしなり則ち信仰衰微と共に道義地を拂ふものなる事を疑ひ少なく

とも言語容貌の上に之を打消さんとはしたりしなり是を例せば人々が根を切り去りてもなほ果實を收めん事を望み頻りに果實の美を賞するは以て果實の未だ害せられざる事を思はんとするればなり然れども彼等は直に根と共に其果實も滅びて回復すべきもあらざるを見出すが如し

第一世紀は實に是と同じき時代なりし也吾人もし單に當時の文學を観察せんか道義の至て進歩したる時代と思はん人として道義を説かざるなく哲學は倫理のために全く吸收せられ決疑學は完全の域に進みて小大漏す事なければ賢者は人事に關する一切の規矩準繩を以て供せられたりセテカの目的は成功なく世に處するの法を主として教ふるにありて哲學を授くる事至て稀なり之を證せんとならば讀者は宜しく彼とテロ帝の衛兵士官アニアスセレナスとの關係を知るを要

すセチカは自ら世に處するの道を細微に渡りて漏らす事なく何を讀むべきか又如何にせば其日を最も有益に費し得べきやに及びたりセ
 レナス會て自らの靈魂の状態をセチカに明かせしに彼は之を聞きて
 敬虔篤信なる僧侶の如く論じたり此一事正に以てセレナスが如何に
 心の平安を得ん事を熱望せしかを推知するに難からざるべしされば
 此等哲學者を家庭に聘し教師兼法教師となす事の一定の習慣となれ
 るは少しも怪むに足らず而して此等哲學者等が總ての徳を論ずるに
 巧言美辭を以てしたり今其一人を擧げんか彼有名なるセチカがもの
 したる倫理論は後世人士の大に賞讃措く能はざる處のものにして右
 の如きは基督教の感化の下になりたるものなりと思惟しセチカは親
 しく聖徒保羅と交際したりとの談柄さへ起るに至りたりき然れども
 此等無數の道德説教はそもく何か單に言語の羅列のみ

哲學者は宜しく節儉たるべし分に安すべき者なりと論じ凡ての場合
 に於て世の事物を總てみな空なり虚なりとして公に嘲罵せるを例と
 せしが彼のセチカはその四年間の大繁榮の中に一千五百万弗の巨富
 を貯へ清貧論をものするに當りて家に數万金の價ある珍貴の食卓五
 百をも貯藏しありしと云ふに非ずや又自ら道德の純潔てふ事を懇に
 説きて彼はジュリヤ及アグリッパに姦通したりと公に譴責せられ其
 弟子チロを導て最一層耻づべき醜行をなさしめたるに非ずや彼は寛
 仁と題する書を著せり然れどもチロ帝の殘虐の大部分は己れ其責に
 任せらるべからざる事は自らも覺知せる處なるべしチロ帝が其生母
 を殺したるを司法院の前に辯解したるの書はセチカがものしたる者
 なりし也果して然らばセチカの筆になれる倫理論は何を成就せしが
 假りに多衆民人を勸化するは彼の少しも企圖せざる事なりしとする

も何たる福利を個人に答へしや吾人疑なき能はず彼は個人を驅りて心の激動の淵に陥らしめ不健全なる反省の風を生せしめたりと雖も以て道徳上の革新を起さしめ能はざりきセチカが教導せしかのセレナスは子ロ朝廷の悪風に抗する能はずして遂に浸染したるに非ずや此時代は他の時代と均しく信仰と道義とは離るべからざる密接の關係を有す事を示すものなりと云ふべし多神教の不完全なる道徳に本問題を制限するも吾人はなほ此に信仰絶無になれば道義も共に地に墮つると云ふの眞理なるを認む多神教界に於ける道徳の眞状を觀知せざる間は吾人は其頹廢の深遠を發見する能はざる者と知れ然り而して斯の如きの見解を獲るは極て難し吾人は試に當時の道義の狀態を描出せる代表的論説を左に掲げんセチカ曰く萬事みな不正と罪惡とにて滿てり罪を犯す者無數にして權勢のよく之を矯正し能

はざる事背徳の恐るべき争闘絶ゆる事なく罪惡の念日に増し來りて廉耻は日に其姿を潜め善且つ高尚なるものを輕じ放擲して之を顧す快樂は自在に跋扈し惡徳は最早其形を隠すことなく衆目の前に現れ出づるに至り不正の行爲は一般に行はれ凡ての人心を煽動して清淨無垢の者は見る事至て稀に否な殆んど其跡を絶つに至れりとルシアン絶叫すらく何人にも富を愛し黄金に眩惑され王者の如き尊榮を以て人の幸福を量り諂諛者及奴隸の中に人と成り自由明直眞理の何ものたるやを辨へず全く身を娛樂に投じて飽食暖衣酒池肉林淫逸欺詐等の奴となりたる者は宜しく羅馬に行くべしと然れども吾人にして此稍や文飾に失したる意見に加ふるに眞面目にして偏頗なき説を聞かんとならば宜しく歴史家リウキ一の許に行くべし彼曰く羅馬の今日まで偉大隆成になり來れるは其善美なる徳によれり然れども今や

吾人は其罪惡に堪へ能はず又其矯正策にも恐ぶ能はずと然れども論者或は曰はん是は概括的の說にして歴世的思想より胚胎せし者なり性質概括的なるものなるが故は是は殆ど取るに足るの價値あるなし何んとなれば此等の說は一般に適用すべきものにあれば也假りに數歩を譲りて當時代は實に暗黒なりしとするも其中に幾分の光明ありし事は疑ふべからざる事實なればなりと

然らば吾人は此等概括的の記録に代ふるに當時犯したる罪惡の佳集とも稱すべき詳細なる記事を以てせんか吾人は第一にかのチロ帝が其兄弟妻女及其生母を殺したるの次第を説くべし彼は陰に其母を殺さんため最初に陰謀をめぐらし成就せざるに當りて獸的暴戾を逞し己れを生み落したる母を自ら下手人を送りて之を殺害し而して虚言を構へて司法院の前に立て其所爲を正當なりと云ひ慕りたるに法院

は其虚偽なる事を知りつゝも一言の之に反抗する事なく奴隸的の従順を以て此殺母帝に新なる尊號を奉る事を議決したるのみならず神殿に於て感恩祈禱會を執行し彼が勝利者として羅馬府に入りし時の如きは法院は萬歳聲裡に人民は老若男女の別なく皆一樣に祭衣を着て彼を歓迎したるなぞ言語同斷とや云はん吾人は又カリグラ帝の狂暴クローデアス帝治下の暴虐なる政府を指して當時代は此の如しと云はん論者或は左の如く答へん曰く如何なる時代にも吾人は恐怖すべき行爲の四五の例に遭遇する者なれば進んで詳細なる征據を探ぐる事なくして至時代を目して殘虐となすは餘りに過酷の所爲ならずやと吾人をして反論を試みしめば吾人は將に云はんとす曰く以上の如き殘忍酷薄なる罪惡は恰も三角塔の頂とも稱すべきものにして其廣潤なる基礎は國民の生涯の中に深く根ざしあるものなり生母を殺

害するの皇帝之に對して感謝狀を呈せる法院此殺母帝を勝利者として出で、歡迎する人民此等は徳義の一般に震慄すべき度にまで腐敗したるを表示する者にあらずして何ぞ然れども吾人の此に讓歩せんとする事は一時代を判斷するに暗黒面に横はる凡ての塵埃を掃き集めて一塊となして之を評するの甚だ不當なるを認むるがためなり何んとなれば一個一個に之を見れば正確なるべきものも全体として之を見る時には正鵠を失すべきを以てなり然れども以下陳述するだけは明白なる事とす曰く若し吾人にして當時の社會の真相を略ぼ正確に知らんとせば吾人はよろしく性質上例外のあるべき概括的記録に満足する事なく又た個立せる事實にのみに頼る事なく進んで當時の風俗習慣の種々なる部門を涉獵し許多の材料を収集し然る後自ら完全圓滿なる論斷を作る可き也之れ最良の針路なる也

第二 婚儀及一家の生活

吾人は先づ第一に此世に存在する凡ての關係の基にして其健全なるは以て國民風俗の美を示し其堅固なるは以て時代の道德を量る尤も正確なる標尺なる婚儀及家庭を説かんと欲す

ヂヤヘテック國民(アリヤン人種)は其精良の遺産として廉耻貞操及謙讓の美德を譲り受けたり彼等がハムの子孫に勝りて文明の域に進むたるも此等の美德を具へたればなり然れども彼等は放蕩息子の子如き行をなして其分配を浪費したり第一に斯くの如き所行に出てしは希臘人なりき彼等も其壯時に於ては貞操謙讓の徳を欠かざりしも次第に繁生を極むるに至りて此寶物を失ひ偉人豪傑と稱すべき者は一人として不道德ならざるはなくアルスピアデスの放蕩無頼なりし事は

云はずもかなセミストクルスベリクルスの如き人物と雖も此非難を免かれざりき希臘にては女性の地位至て低く教育を授けらるゝ事なく國事に關する事にして男子の行ふべき事は一切之に關與するを許されざりきプレートー曰く奴隸にして其主人に従順ならず妻權夫權と同じき處の國家は全く滅亡せる也とアリストートルは明に婦女を以て劣等の人間となせりされば希臘人の眞の意義にては家庭的生涯といふ事を知らざりし也彼は出来るだけ家居を避けて幸福快樂をその爐邊に求むる事をなさずして之を他の場所に求めたりソクラテス其友に問ふて曰く君が最も少く口きく處の者は君の妻なるべしとデモセテスは少しも憚る處なく公言して曰く吾人は快樂を遊女に於て見出す妻は吾人のために子を設け家政を處理する者なりと以上叙し來りし如くにして遊女は妻の地位を占むるに至りければ希臘史中巾

欄の英才は一人として顯れ出づる事なく遊女の如き下賤の女輩が顯位を占め國家風俗の上に大立物となりたる也彼等は哲學者の講筵に出席して之を聽聞し書を著し且つ有名なる政治家輩と親密なる交際を結び大哲ソクラテスすら遊女アスパシヤの演説を聽聞せし事ありとぞされば著名の士が彼等の逸話を拾集し其傳記をものしたるも敢て怪むに足らざる也彫刻家は神像を製作するに遊女を以て其模型となすを常とせり畫工プラステルス其有名なるアフロデの像を製するにフリンと呼ぶ名高き傾城をモデルとなしたりき遊女相伴ふて寺院に詣でんか人々は双手を舉て之を歡迎したり又た遊女フリンがポセードンの祭禮の折女神に扮し全く衣服を脱ぎすて裸體の儘其髪を亂して除るに海中にをり行きし時の如きは拍手喝采の聲全希臘を震動せしめんばかりなりき

羅馬人は其遺物を希臘人よりも永く保持したり彼等の頼て以て權勢を握るに至れるは職として其貞操堅固なる道徳を最も嚴肅に守りたるに因る卑猥なるものは一として許容する事なく神像と雖も裸體なるものは風俗を壞亂するものとして之を禁じたりき婚禮は神聖なるものご思考せられ兒童は質朴なる家庭に貞操なる慈母の膝下に親しく養育せらるゝ事を得たりブルタークの云ふ處に依れば羅馬は建國以來二百三十年にして又他の人々の云ふ處によれば五百二十年にして始めて一個の離婚沙汰ありたるのみなりしと此に於てか吾人は知る羅馬人は眞の家族的風味を樂むを得たる事を業務を了るや彼等は直に其家に歸り喜で一家團樂の快を取れりきアルスピアデスの如き生來の放蕩家も羅馬にては其足場を得る能はずアルバシヤプリンの如き遊女輩と雖も此處には其毒手を逞するの餘地なかりしなり

然れども希臘文物と共に其卑猥の風も羅馬に浸入し征服したる世界の富は潮の如く注ぎ來り帝國の奢侈なる風は共和政府時代の質素なる風に取りて代りたる曉に至りては大に然らざるものありて存す往時の單純なる家居は全く姿を隠して貞操守節の徳は次第に其後を絶ち衣服は華美に流れ過飾の弊上下を通して行渡りたるは空前絶後とす上流社會の婦人は價高き白粉を其顔に塗り驢馬の乳に浴し無数の香油膏藥薰藥及繪具顏料を使用したりき凡そ貴婦人たる者は假裝の凡ての術に練熟なる女奴隷を常に其側に侍せしめ眉毛を黒くし頬を紅く塗らしめ頭髮を染め鬘を入れしめ少したりとも其意に添はざるあらんか長き針を以て彼女を刺し又た之を打擲したりき帝政の始に當りて殊に貴婦人間に珍重せられたるは褐色の髪なりき要之衣服の華美耳環腕飾等に鐵めたる寶石寶玉は實に夥たしきものにして吾

人は驚愕絶叫するより他に道なきなりカリグラ帝の寵幸を專にしたる妃ポーリナが婚儀の式場に列したる時に其身につけし一連の寶玉は其價實に貳百万弗なりきかの佛國革命の時ために危禍を招きたる皇后マリイアントワチットの所有せる有名なる頸飾も其價は僅に百六十万フランなりし也即ち前者に比して六分の一に過ぎざりきさればセチカが彼等は其兩の耳に二三の大財産を垂下するなりと云へるも真に理りなる也

以上の如き裝飾を人に示さんとする念の起るは自然なり古昔羅馬に於ては家婦は概して常に家居するが故に市街を通行するを人に見らるゝ事甚だ稀なりき而して外出の場合にも覆面するか或は密閉せる駕籠に乗るを例とせるに今や然らず當時の格言はターチリアンが云へるが如く人を見人に見らるゝなりき劇場曲馬場宴會等に入出入する

は畢竟するに己等を衆目に曝し其美服を人に誇らんためなりき殊に虚飾を好める無資力者に取りて便利なりしは衣服寶玉肩輿袴は勿論老女又はうら若き腰元に至るまで賃借し之を携へて劇場等に入出入し得る事なりき而して是が世の風教上非常なる悪結果を持來したるや云はずして明なり芝居狂言の極て猥褻なりし事宴席の壁上食卓器具に畫ける神像は凡て裸体なりければ餘興の歌舞の卑猥なりし事は推して知るべし

蓋し是がために貞操の徳善良なる風儀は全く其後を絶つに至れるは自然の結果とすジユウチナル及パーシアスの如き諷刺家の云ふ事を以て誇大に過ぎたるの言なりとするも又ホレス殊にオウキド中に吾人が讀む處のものが詩的修飾なりとするも未だ以て此前提を打破するに足らず結婚の容易に營まれたるはその容易に離婚し得るが如く

なりき相互の愛戀の如きは全く齒牙にかくる處に非ず婚禮は男子に
 取りては單に金銀上の取引の如く女子に取りては狹隘なる深窓の束
 縛を脱して自由の身となるべき唯一の方法なりし也セチカ曰く己れ
 の歳を數ふるに一年毎に改選さるゝ總督官の數による事なく夫の數
 による婦女子ありとジユウキナル嘲て曰く婚禮の花冠未だ枯死せざ
 るに互に離縁する者ありとターチリアンも曰く彼等の婚儀を結ぶは
 單に離縁されんがためなりと朋友は互に其妻を交換し甚しきに至り
 ては朋友の名を利用して人の妻女を誘拐する者さへありたるに世人
 は少しも之を怪まざりきセチカは百尺竿頭一步を進めて斷言して曰
 く人の婚儀を結ぶは姦通に新奇なる妙味を供せんがためなりと夫婦
 の相睦む事は反て嘲笑の種となりきセチカ又曰く何人にも艶福を
 有せざる者は輕蔑せらるゝ劇場曲馬場の如きは男女淫猥の媒介所た

るのみならず神の殿堂も之がためには其神聖を汚され青樓又た其媒
 介所たりき淫靡の風上下を通じて甚しくために高貴の家に生れたる
 婦女にして獸慾的快樂を肆にせんため警察署廳に公娼の登録を願ひ
 出でたる者ありしに至りては道德風教の腐敗其極度に達したる者と
 云ふべき也此の如き醜聞の起る事益々甚たしければ政府は制令を發
 して之を嚴禁するに至れり子を持つは祝福にあらず反て重荷と思は
 れ親は其子を殺害するも敢て罪惡と見做されざりき是れ異教の倫理
 が親たる者に無限の權力を其子の上に有するを是認したれば也又た
 妻たる者が全く家政を顧みる事なく子女漸く生長せば盡くみな之を
 奴隸の手に委ね己れは俳優の品評競馬比武者の勝敗に注意するに專
 にして少しも其子女の教育に掛念する事なかりき
 されば自然の成行として婚禮は漸次卑しめられ疎んせらるゝに至れ

り誰か不從順なる妻女に贅澤の資を供せんために婚儀を營む者あらんや男子は却て獨身の境涯を喜びたれば獨身無子の風大に行はれ政府はために干渉するの止むを得ざるに至りきオーガスタス帝時代に遡りて政府は既に法令を制定し一定の年齢に達するも猶ほ結婚せざる者には罰金を課し又増税したりき立法院は最初此法律に反對し結婚嫌忌の理由は婦女子の不從順なるがためなりと主張せしも其議遂に行はれずして法律は次第に嚴しくなりたりしも如何で此の深く根ざしたる弊風を除去する事を得んや

吾人若し異教界に充滿せる罪惡の覆面を除き去らんか世人は之を以て禮を辨へざる者となさん此故に神は彼等を其心の慾を肆にするに任せて互に其身を辱しむる汚穢に付せりとは羅馬書第一章二十四節に聖徒保羅が記する處彼が同書中に描出せる恐ろしく忌むべき事柄

は至る處に吾人は之を實見し得べしテロの如き人格に於ては吾人は殺戮と淫慾と相提携して其害毒を流したるを明に見るを得べし知事タイグリナスがアグリツパ湖上の築島にて催せる大酒筵の如きは亂暴狼籍を極め淫猥名狀すべからず寺院する淫事を獎勵するの場所となり女僧は遊女にして之に親しむは宗教上の義務なりと考へたりしとあるに至りては吾人は只長太息せんのみ

然り而して是にも數多の例外ありし事は疑ふべきに非ず當時の墓誌銘のよく之を證明する者なきも吾人は宜しく當時に於てもなほ貞節なる良妻賢母あり又た眞誠清潔なる婚儀のありたる事を考ふべき也殊に中流社會に於て然りとす夫の其妻の死せる時墓碑を建て之に左の如き銘を刻みつけし事は屢吾人の見る處なり曰く彼女は其死によりての外は余に些の苦痛を與へし事なし又家政の善く整へる事妻の

敬虔にして貞操なりし事等の讃辭は決して少なきにあらざりき然れども家庭は一般に紊亂し放肆淫逸の風弘く行はれたために現今世界の大都會にして最も腐敗の甚しと稱せらるるものも後へに瞭若たらざるべからざる程なりしと云ふ丈は正確なる事實とすされば世の憂國の士は大に之を概しタシタスの如きは燃へるが如き熱誠を以て日耳曼婦人の貞節なる事を稱揚して頻りに輿論に訴へ其反省を促し此害毒を拒止せんと種々工夫を凝らしたるも大厦の覆る一木の能く之を支ゆべきにあらず腐敗の潮流は次第に廣まり弘まりて其底止する處を知らざるに至りき事此に至りしは當時の事態之を援けたるにも起因す世界は征服されたり獲たる財寶は之を肆に消費せざる可からずされば百有余年間羅馬人の格言は上下をしなべて快樂の二字なりき而して第二世紀の末頃より第三世紀に亘りて逸樂の時機已に去りて其姿

を止めずなり缺乏は次第に加はり不幸は益深くなり來りたる時に始めて人心稍や眞面目の調を帯ぶるに至りき

第三 勤勞と奢侈

巨万の富は征服したる國郡よりして羅馬府に流入せり而して帝國政府が大に國費を節減せし後と雖も猶ほ多額の税を屬邦に課し徴收したりき殊に東洋諸國にて數百年間蓄積したる財寶が一朝にして勝利者の手に歸したる事にてありければ金銀の輻輳は實に無量にして前代未聞なりきエルサレムの聖殿よりのみにてもクラサスは一千百三十一万六千六百弗を掠取しガビニアスはスリヤの知事たりし時一千六百八十三万九千三百六十弗を徴收し其外イサプト諸國より掠奪せし額は決して僅少にあらざる也概算せば少なくとも一千八百万弗の巨

額が羅馬府に入りしなり

富は一個人にのみ危険なるものに非ず又國民に對しても均しく危険なる者なり而して殊に其富が羅馬に於るが如く忽に流入し勤勞の結果漸次に蓄積したるものにあらざる時に於ては殊に危険なる者也此結果羅馬に於ては中等社會の零落となり巨大なる富は少數者の手に全く吸収せられ多數人民の貧困は日に増し來り終に社會は束縛なき華奢と放肆とに流るゝに至りし也

古へは今世の如く中等社會の眞價を知る者なかりき何んとなれば健全なる中等社會の基礎たる勤勞は重せらるゝ事なく反て蔑視せられるれば也プレートーは人にして其職業朋友に交り國の爲に盡し能はざる境遇にある者は之を輕蔑擯斥する決して不正にあらざるなりと思ひアリストートルの如きは肉体上の力を要する勤勞は凡て自由の人

を卑しくする者も何んとなれば造化は此目的をなさしめんためには特種の階級を創造し給へば也則ち我等のために奴隸となり日傭となりて働く處の階級を設け給へるなりと吾人は希臘亞典市に於て如何に中等社會が奴隸制度のために根絶されたるかの沿革を追跡し得べし其歴史の早時にありては亞典市には自由なる勞働者より生立せる階級ありしも富次第に増殖するに従て小資本家は大資本家のために全く呑噬せられたる結果中流社會の者も奴隸と相並て働かざる可らざるに至りては賢哲ソロンが企てたるが如く勤勞によりて生計を營み之を敬ひ尊ぶの風全く地を拂ひ人々は懦弱に陥り凡ての惡風に浸染するに至りき

羅馬に於る事態の成行も又之と均しかりき此處にても勤勞は次第に耻辱とせられ金銀を儲くる働は一切賤しむべきものとして輕蔑せら

れたりき醫業、建築業、商業のみは自由の人のなすも敢て耻づるに足らざる職業なりと信せられ手工の業は人の品位を下す者なり蓋し作事場は高尚なる思想と相容れざる處なればなりと此に於てか吾人は再び奴隸制度の災禍を見る同制度の存在する處には自由なる勤勞の尊ばるゝの理なく従て自由なる勞働者より成立せる中等社會の興る理由なき者と知れ

昔時眞正の中等社會の存在せるは伊太利の田舎なりき彼等は自由の農夫より成れる一團体なりし也彼等は狭少なる田園を勵みて耕し凡そ耕作に適する處は寸地も之を除す事なかりき彼等は實に堅固なる中等社會を組織せし者なるも耕地は次第に投機者の買占むる處となり東洋諸國及スール地方にて巨万の富を獲たる貴族輩が大資本を投じ大に奴隸を使用して耕作に従事するに至りては是を以て自由なる勞働

者の手にありし働は全く奴隸の掌中に占めらるゝに至りては如何でその存在を許さんや忽にして彼等は奴隸のために追拂はれ辛く其地位を繼續し得たるは地遠隔にして奴隸を使役するも之を管理し能はざる地方に於てのみなりき耕地廣大なりと雖も其耕作に従事する者は劣等横着なる奴隸なりされば之がために却て多くの損耗を招くに至り人々は勞至て少なくて利潤の確實なる牧畜業に目を注ぐに至れりされば曾ては其實のり豊にして風のために浪打てる穀物畑したるばかりの果實を以て充てる果園も今や其影だになく只數哩の間目にとまるものとは茫々なる草原の牛馬の芻つゝあるのみ昔時は奇麗に耕したる田畑果園の中に數多の村落あるありて人目を樂しめたるに今や一變して遠く隔て彼方此方に牢屋の如き建物ありて其中には憐れ果敢なき數百の奴隸の園はるゝありき當時の格言二つあり

曰く買求めたる労働者は雇ふよりも善し又曰く牧畜は農作よりも利益ありと是等は勤勞の衰頹を示す好例ならずや
 地方在住者にして最早其生計を營む能はざるに至れる者は盡くみな
 大都會殊に羅馬府に群がり來れり其結果羅馬市の人口の増加は實に
 夥しきものなりき吾人は帝政の始め羅馬に於る人口の數を詳密に知
 る能はずと雖も一百五十万なりしと云ふあり又ホイクの如きは二百
 万以上なりしと云ふ此中壹万人は上流社會に屬したる者即ち議員及
 勳爵士なりきホイクの云ふ處によれば奴隸の數は百万にして外國人
 の數は殆ど五万自餘は極て貧しき賤民なりき而して羅馬市にても自
 由労働者は奴隸と競争せざるべからざるのみならず反て彼等のため
 に其産業を奪はれたり富貴の人が其家にて要用なるものは凡て奴隸
 に命じて之を作らしめ大厦高樓も受負師の使役せる奴隸之を建築し

たれば自由なる職人輩は次第に其得意先を失ふに至り勢ひ大官富豪
 の家に其身を寄せて乏しきながらも奴隸よりは稍や勝れる生計を營
 まざるを得ざりき彼等は朝早くより夜遅くまで炎暑金を爍かすの時
 も寒風凜烈として六花瀆紛たるの嚴冬にも常に長き半天を纏ふて主
 人に奉仕し主人在宅の折にはその側に侍り外出の際は隨行せざるべ
 からざりし是れ抑も名は自由労働者たるも實は賤しむべき奴隸たり
 し也而して人民の大多數は全く怠惰に流れ國家は之を養はざるべか
 らざりし也

其昔時にありても羅馬政府は市民に廉價を以て穀類を拂ひ渡しきク
 ローデアス帝の時に一の法律を制定して市民には價なくして穀類を
 頒付したりき内亂の當時受殺者の數非常に増加せしは君主が其臣民
 の甘心を得んために自由に之を頒與したるによるシイザーの時代に

は其數三十二方に達したりき其後貧民を驅りて外國へ移住せしめたるため十三万人に減じオーガスタス帝の時には十万に減したりしと雖も直に再び増加したりき貧民を調査する事は精細に涉れりと雖もその徳行上には少しの注意を拂はざりきセチカ曰く盜賊であれ偽善者であれ姦通者であれ皆官穀を貰ひ受け其徳行に論なく凡ての者市民たる也と毎月指定日には名簿に登録されある者は麥壹石の手形を受取り而して直に携へ行きて之を示せば倉庫より量り渡されたるなり此れ此外政府は屢多額の金員を老若男女の別なく施與したりき然れども世界は再び此の如き恩恵を目撃する能はざるなり而して讀者は宜しく之は眞の恩恵にてあらざりし事を考ふべき也何んとなれば施與を受けたる者は一般貧民にあらずして羅馬市民に限られたればなり又頼る邊なき窮民にあらずして働く事の出来る強壯なる人々

に與へられたれば也而して與ふる者は個人にあらずして政府自ら之を爲したるなり即ち愛より出でしにあらずして義務を其標準としたる也要之此賜物は羅馬市民が征服したる國々より分捕せしものを各分配したるに過ぎずして換言せば富貴なる者か怠惰なる無頼の徒を恐れて拂出したる賞與金なりし也オーガスタス帝治下に人民は穀物の外に酒をも與へよとかまびしく請求したりしに帝答へて曰く水道より供給せらるゝ飲料は頗る充分なれば何人も渴するの要なかるべしと後代の皇帝セウエラスの如きは油をも分配するの已むを得ざるに至りきオーレリアン店凱旋の時にパンを人民に分與したりたれば之が習慣となりて人民パンを請ふ時には恒に之を與へたりき而して帝は人民に酒をも分與せんと思ひしが知事の奏上によりて此議は漸く沙汰止みとなれり彼曰く吾人もし人民に酒を供せんか雞鴨の

糞物をも酒肴として給せざるべからざるに至らんと而も極て安價にて酒を人民に賣下げたりき斯の如き恩賜の制度は一般風教の紊亂を醸生せずして止まんや愛は貧者を高むるものなりと雖も此の如きの無意味の施與は反て彼を傷ふ者なり基督教は初て眞の恩恵を世に紹介して勞働の價値を高めたると同時に清貧をも重んずべき事を教へたる也

一般民衆は施與によりてその生計を立てつゝあるに際して富巨万を重ねたる僅少の富豪家は贅澤奢侈の中に無上の快樂に耽りきオーガスタス帝の世に至るまでは羅馬は其後の繁盛に比して至て貧少なる都會なりしなり帝即位の時には羅馬府の家屋は盡くみな煉化造なりしに位を去るに當りては盡くみな花崗石造と變じたりき官衙の建築物は勿論一人の住宅をても莊嚴華麗を盡し庭園等を並せて二丁餘

を有する邸宅は狹隘なりと思惟せられたり而して此等邸宅の構造の莊嚴は實に人目を驚かしむるものにして之がために幾何の財寶を費やせしやは想像の外なり亞弗利加産の花崗石綠色蛇紋入りの大石等は遠く埃及及黒海地方より運び來られて其壁を飾られたりき一言にして之を掩へば華麗とや云はん壯大とや云はん吾人は之を言ひあらはすべき言を見出すに窮する者なり

然れども今や總て此等に超絶するものこそ願れ出でたれそは即ちチロ帝の金殿なりし也其大さは都會の如く其連柱は各一哩の長きに達すべし而して玄關正面には高さ百二十尺の帝自身の巨大なる像の立てるありされば此宮殿の他の部分の廣濶なりし事も推して知るべき也其内には原野あり庭園あり牧場あり森林あり而して又湖水ありき邸下客間等は黄金を鏤め寶石及大眞珠を以て之を飾り玻璃製の姿見

を具へたり稍や小なる室の壁は盡くみな眞珠を以て之を蓋ひたり特に善美を盡したるは食堂にてありき浴室の華美また稀有なりと云ふべし食堂の天床板は金泥を以て之を塗り精巧なる繪畫彫刻を施し食事の時には四季折々の花鳥を現し又客の頭上に花を降らしむるの趣向を設けたりき又浴室には海水を美麗なる水道によりて引きタイバ川河の源泉より引きたる硫黄泉は堪はず金銀の放管より流れ出で、種々彩れる水盤に入りければ水は赤緑白等種々の色を呈したりきテロ帝之に住居を定めし時曰へらく朕も今や漸く人の住むべき住家を得たりと其後オン帝の時に至りて三百万圓を投じて此宮殿を取擴げしめたるにウキリアス帝は之をもなほ帝者の住宅に適せずと云へりき斯くて富者は競て廣大なる邸宅を市中に構へたれば地面は非常なる高價を呈し貧民は市中に住居し得べき餘地なきに至りければテロ

帝一の法律を發して家屋を引き下げ其敷地を賣り暴利を貪らんと欲する者を嚴重に取締るの止むを得ざるに至りき富豪なる羅馬人は都府に美麗なる邸宅を構ふるのみならず山中及海濱に數多の別墅を設け幾哩ともなき廣大なる庭園を作りて己のが眼を喜ばしめたれば貧民社會は次第に耕すべき土地を奪れ如何ともなすなきに至りその結果大に下層社會の數を増すに至りしも富豪家は豈に之等を顧みるの暇あらんや純正美術の衰ふるや人は巨大なる物を造り又は過度の裝飾をなして人目を眩惑せんと勉むる者なり當時羅馬市に羅列せる萬般公私の建築物は其設計の廣大にして莊嚴美麗を盡したる近世最美最富なりと誇る世界の都府に勝る事幾何なりしぞ吾人は之等を比較するだに耻る者なり金殿玉樓華美費澤を極めたるの劇場公共の浴場凱旋門萬般

の金銀銅像數へ來らば吾人は其際限なきに苦しむ者なり上述の如く
なれば家内の裝飾も凡て華奢善美を極め敢て便不便を問はざりし事
は推するに難からざる也食卓の如きも古今の珍木を選みて之を造り
脚は皆な象牙より成れり寢臺は金銀寶玉を鏤めパピロニヤ製の錦
繡を以て之を覆ひ三四萬弗の價値ある器皿は古代の銀板を以て作れ
る棚上に燦然として並立し書畫骨董類も名家名工のもの世に稀代の
珍品たる事は言を俟たざる所なり

善を盡し美を盡したる宏壯なる家屋に住居し耳目に觸るゝものみな
華奢贅澤を極めざるものなきに人心のみ豈に敢て整然として天真爛
熳の眞美なる質素性を保持し得べきものぞ人々相競て饗宴を開き酒
地肉林晝夜を分たす酒食の快樂を永ふせんためには吐薬を用ゐるに
至りき人々は食はんがために吐き吐かんがために食ふものにして之

がためには世界の各部より取集めたる山海の珍味をも消化せんとも
せざりきとはセチカの日ふ處當時の状態を穿ちたるの言なりと云ふ
べし

高尚なる目的なく熱誠なきの世は獸的情慾を擅にせんとする無頼の
徒の相共に祝盃を擧ぐるの時なり劣等なる娛樂と道義と相伴ふ事能
はざるは自然の理なり青年は遊惰安逸に流れ奮て神聖なる勞働に従
事する者なく萬般の悪業は踵を接して相起り淫猥なる歌舞音楽は青
年の心を腐弱にし相競ふて頭髮を櫛り其自然の男々しき聲を在けて
女子の如くならしめ以て諂諛の用に供せり事情斯の如くなるを以て
誰か一片の活氣をだに帯び居る者ぞ誰か智識を得んと熱望する者ぞ
否な誰が人たるの本性をだに有し居る者ぞとは當時心ある人士の慨
嘆の極發せし言ならずや

酒色の慾は以て人心を満足せしむべき者なるか然らず人如何に酒色に耽り劣等の慾望は凡て之を満足せしめ得るも之によりて安する事能はずして新奇を追求するや必然なり高尚なる目的なき生涯は空なるもの虚なるもの也當時羅馬人の生涯は眞に之に當れり宗教的生命は早や既に去りて痕跡をだに止めず哲學は美麗なる言語の羅列に過ぎざるまでに墮落し人心は懦弱に陥り貧者は富者の門に群り來りて扶助を乞ふに至りければ進歩的創製的時代は既に過ぎたる者と知るべし

以來述べ來りたるどころ或は誇大に過ぎたるの誇りあるべしと雖も一事の正に拒むべからざる事ありて存す何ぞや曰く人生に高尚なる目的は皆無なりし事なり之れ舊世界が那邊にまで墮落せしかを示す確證に非ずや

第四 公衆の競技

當時羅馬の上流社會の人士が演劇曲馬戰車競走比武的競技に専ら耽りし事は明なる事實とすテロ帝自ら之を行ひ公衆に示したり彼は何れの勝利者よりも得意然として希臘的競技にて得たる千八百〇八の花冠を携ひ來りて羅馬府に入り之を大曲馬場の中央に立てる尖塔にかけたりき此風次第に普及して其制止する處を知らざりければ心ある皇帝等は法律を發して之を禁止するの己むを得ざるに至りき事情此に至れる所以は人々が從來の遊戯に倦みて新奇にして強く心を刺激するものを要するに至りたれば也彼等は既にあらゆる快樂に耽り之に倦みたれば曲馬場及試合場に至りて壯絶快絶なるものを目撃して漸く心の渴望を癒したり又た万事に冷淡となり己れの生命さへも

蔑視すに至りければ比武場に生死を賭するに至りし也此時代は一般に興行物觀覽物に熱中したるの時代にして頗る當時の特質を示す者なれば吾人は此點を一層詳密に研究するを要す何んとなれば斯くして吾人は當時及古代の道德上の見識を深からしめ得るを以てなり當時の快樂は皆肉情的なりし事は明なりとす妻たる者は其夫を欺き情夫と戯れ奸淫を行ひ酒色に耽る事を最上の樂となし徳を嘲り神明を愚弄したり要之尊敬すべき者一として彼等のために汚されざる者あらざりき猥褻なる事をなすにも少しも隠す事なく如何に不潔なる言を吐くも少しも耻とせず吾人が見るに忍びざるものをも少しも頓着せずして之を見物する等實に言語同斷の事ども多かりし也舞蹈者は其衣服を脱ぎ棄て、半ば裸體にて否な全く裸體にて舞臺の上にあらはれ歌舞をなしたりき技藝の善惡は彼等の敢て問ふ處に非ず彼

等の最も掛念する處は單に肉の快樂を肆にするにありき事情此の如きに至りては眞正劇の人心を引く能はざるに至るは自然の果とす彼等の好尚は主にも曲馬圓戯場の競技に向ふに至りき是等の競技は其原を宗教上の儀式に發し未だ其關係を持続せりと雖も皇帝の時代に至りて始めて政事上の意味を含むに至りき上政府に立て政を司る者は下人民をして其心を競技の一方に傾けしむる事の極めて彼等に取りて有益なる事を覺りきパンと競技とはこれ人民の均しく要求せし所なりければ彼等の飽食暖衣競技に耽り居る間は帝王は枕を高ふして安眠を貪り得し也此故に政府は穀物の供給上に大に苦心したるなれ又祭禮競技等に多額の費用を投じて盛に之を執行したるなれ人民の中に政治上の活氣次第に衰微するに従て競技は益活氣を帯ぶるに至りければ皇帝は其善惡を問はず多額の金員を競技に費

したるも此故なり極て吝嗇なる皇帝すら競技のためには多額の金員を費さざるべからざるものと思惟し最も頑迷なる君主も此點に付ては人民の意に屈從せざるべからざりき共和政時代には競技をなすにも相當の制限ありき然れども帝政の時代となるに至りてはオーガス・タス帝の昔時に遡りてさへ六十六日間相續きたる競技ありきマール・スオーレリアス帝の時には時日は百三十五日に増加したりしのみならず華美を盡したる大宴會を催せりきタイタス帝はフラウキアン園・戲場の落成式に於て百日間續ける宴會を人民に供しトラジャン帝はダシアンを征服したる時には百二十三日間人民を饗應したりき之は萬事華奢を以て其誇とせる羅馬市中に行はれたる事にして地方には全くこれなかるべしと思はるゝならんも事實は大に之に反す其度こそ中庸を得たりしと雖も地方にも競技の盛なりし事は羅馬帝國の凡

ての部分に存する數多の巨大なる園戲場の廢墟によりて見るも明白なりとすアグリツパ王はパルステナにてすら競馬場を作り羅馬人と金錢を賭して競馬し大にユダヤ人を戰慄せしめたりと云ふに非ずやポンペイの城壁には競技執行の順序を示せし招牌を今日吾人が見るに非ずや中流都會の市吏の尤も困難を感じたる義務は私費を投じて競技を備ふるにありき而して今や吾人は偶然にも羅馬帝國の始に當りて中等都會に行れたる比武會にして三日間連續し其費用實に二万〇八百八十弗の巨額に達したる者ありし事を知る
 人民が競技の席にて饗應を受けたる事は敢て珍らしからざりき而して華麗なる饗應をなさんためには特に時日を定めたる事あり其時には皇帝の奴隸等は食物を廣き淺き大皿に盛り酒瓶を大なる盞に入れて持運びたりき老若男女の別なく議員も勳爵士も宮内官吏も否な皇

帝自らも出で、羅馬の廣き公會堂にて大食卓を取圍みて共に食したりき果實菓子を投じ人民をして之を拾はしめ又炙りたる家禽及雉子等をも授與したりき福引の圖を配付して大小の賞品を與へたり即ち衣服地家具金銀製の器具家屋及敷地等なりきされば幸運の者は一日にして富有の人となるを得べかりければ人々相競ふて群かり來りために雑沓混擾の中にその生命を失ふ者ありたるは珍らしからざりき曲馬場にて興行する戰車競走に對する人民の熱心は實に夥きものなりき興行前數日間羅馬市民の心を傾くる處のものは人馬共に纏へる赤緑青白の色を以て區別されたる四組中の何れか今度の競走に勝利を得べきやの疑問なりき之がために數万の金額否な全くの土地財産を賭する者さへありき又た己が最負する組に勝利を得せしめんがために神々に祈願をこめ犠牲を捧げ卜者に占を求め甚しきに至りては

魔法を行ふ者さへありきジュウエナル曰く緑組が後れを取らんからば羅馬はカンニ(地名)に於て大敗北を取りし時と同じき大悲運に陥らんと吾人が羅馬風俗を描出するに付きて大に負ふ處あるフレドランダー記して曰くチロの如き皇帝が帝國を支配するも將たマールカスオーレリアスの如き君主の之を統御するも國內平和なるも内亂止む事なきも國境は蠻夷のために侵掠さるゝも羅馬に於る自由の民奴隸議員勳爵士公衆の最も重大視したる處のものは青組が勝つか將た勝利が緑組の手に落つるかの問題なりき興行の前夜人民は棧敷を占めんがために曲馬場に群がり至れるは場内席數夥多なりしと雖も猶一席を占むる容易ならざりければ也シーザの時代には競技場に十五万の席を備へたるか後タイタス之に十万を加へ終に三十八万五千の多きに至れり競技は先づ第一に宗教上

の儀式を以て始まり當日競技の催主たる羅馬府長は勝利者として戦車に乗じ大行列の前に進めるに神像帝像を昇ける者又美服を纏へる大勢の僧侶は喇叭銀笛の曲に連れて肅々として之に伴ひ大廟を出るに観覧人は一齊にのびあがりて拍手歡呼の裡に之を迎ふるなりき次に衆目の均しく向ふ所は府長が競馬を開始せよとの合圖を下す高樓なり直に白布が馬場の方に向て閃めくよと見るや滿場齊しく出てたりと呼ぶ今まで馬場を限れる繩は切り離され戦車は出場する直に砂煙に包まれて電光の如く驅けまはるにそら赤がぬいた青か勝ちたとの聲は観覧人が各自負する組を獎勵するの言にして拍手喝采によりて勵まさるゝものあり呪詛を以て愚弄さるゝものあり殊に戦車が回轉標に達したる時微塵に破壊し人馬諸共地上に傾倒する時は激動の度其極點に達して狂亂甚しく怒吼以て其鬱憤を泄らすなり勝利者

か決勝點に入るや彼は雷鳴の如き歡聲を以て迎へられ紐の如きもの花冠の如きものは雨の如く彼の身邊に飛び彼は帝王の座前にて黄金に充てる財布及棕櫚の枝を賞典として賜り意氣揚々人民歡呼の裡に馬場を通りて勝利者の控所に赴ける也此に於て一の競走は終れり直に第二に着手する也されば正午に短き休憩時間あるのみにて終日引續きて二十四回の競走ありし事は決して珍らしからざりき數多の人々は早朝より競馬場内に止まりて食事をなし夜に入り競技の終るまでは決して其家に歸らざりき其熱心驚くべき也
 此外人民の觀覽に供したるものは圓戲場内の興行物なりとす比武獸獵水陸戰爭の演習等は此中に行はれたりき現今の競馬を見れば吾人は以て昔時競馬場内に行はれたる戦車競走は想像し得べきも圓戲場内に行れたる競技に至りては到底近代のものによりて想像すべくもあ

らす基督教國內に於て今日其遺物として微かに其面影を認むべき者は只だそれ西班牙國の牡牛闘争ならんか

ポンペイ市の城壁上に吾人は今日尙ほ次の如き銘を讀むを得べし曰く天氣晴朗ならんか七月三十日ポンペイ市内試験場に於てエゲルスーセアス、サータスの比武者連の闘戦あるべし又獸獵の催もあるべし觀覽人の棧敷は天遮をかけ水をまき一切便利に取計ふべし云々と闘戲場の席は上中下の三段に分たれ一番下なる席には爵位ある貴顯元老院議官勳爵士黄金寶玉寶石を以て燦然たる飾をなせる貴女淑女、華き衣を着けたる女僧之を占め中席は他の階級の士人之を占め上席は普通人、田舎人、兵士、家僕等之を占めたれば其景況思ひやるだに壯なりと云ふべし試合場の頂上には大旗小旗の翻へれる檣柱を以て天遮を設け欄干は種々に彩色せる掛毛氈を以て之を覆ひ柱と柱の間には花

を以て飾れる神明繩をかけその間には光輝燦爛たる神像を安置し三脚の香臺より絶へず馥郁たる香輝立上るなり要之万事凡て快絶愉絶の空氣を以て充たされ觀覽人は愉快に談笑し若年男女は戀愛の情緒を紡ぎ此比武者に賭し彼の比武者に賭せり然り而して群集がかく集り來りて觀覽し居る興行物は如何に恐ろしきものなるぞや試合は武具甲冑を以て身を固めたる比武者の華美なる行列を以て始まり皇帝の前に武器を下ろして皇帝陛下の万歳を祝し奉る將に死せんとする者陛下に御挨拶申上げると聲高らかに呼はりたり先づ最初には假闘あり後ち物すごき調子にて合圖を興ふるや真劍の勝負となるなり一騎打の勝負あり一群の武者入亂れての闘争あり身に甲冑を着る事なく殆んど裸體のまま手に短劍と三叉の短槍とを携へて試合場に上るもあり大なる楯短かく真直なる劍を以て出て來るもの小な

る圓き楯と稍や曲折せる劍を携ふるものあり長槍を帯びたる勳爵士
 あり古昔の英國人に擬して戦車に乗りて闘ふもの千差万別枚舉に遑
 あらず凡て此等の試合は遊戯のためにするに非ず亦た見へを張らん
 ためにもあらずして眞に生命を賭しての事にてありき比武者の中一
 方が敵のために創つけられ倒るゝや興行主は之を殺すべきや生かす
 べきやを觀覽人に尋ぬ彼等之を助けんと欲せば携ふる手巾をふり之
 を殺さんと願はゞ拊指をあぐれば足れり婦人否な孱弱なる妙齡の女
 兒と雖も平然として其親指を以て不幸なる比武者を殺すべきの合圖
 をなせり死を恐れざるの勇士は人々より夥多の賞賛を博し億病なる
 者は彼等の怒りを招けりそは比武者は潔よく死につくべき者と定め
 らされたればなり未だ醒き血が其身体よりしたゝる時に鬼面を破れる
 役人は屍を場上より引き去り黒顔なる奴隸は鋤を以て血痕まだ鮮か

なるの地面をならし新しく砂をまき再び血を流す悲劇を演じ出せ
 り
 比武者の眞劍勝負と相並んで盛に行はれたる者を野獸の噛み合ひと
 す羅馬及各地の圓劇場に供せんために野獸を世界の各部より獵り來
 れり河馬をイチヅトより野猪をライン河邊より獅子を亞弗利加より
 象を印度より運び來り犀駝鳥の類また乏しからざりき一度に數百の
 熊獅子を一場に集めてかみ合せたる事敢て珍らしからざりき野獸を
 互に闘はしむるあり犬と争はしむるあり人間と格闘せしむるありさ
 尙ほ之よりも壯觀なるは海上の戦争を圓劇場に將又た之がために掘
 割せる湖水の上に執行せる事にてありき此等は假戦に非ずして實戦
 なりされば戦死する者溺死する者千を以て數ふべかりき
 以上叙し來りたる處既に殘忍野蠻なりと雖も然も尙ほ宏壯の念を看

人に鼓吹するに足らん然れども死刑を執行するに同しく圓劇場に於てし人々競ふて之を見快哉を唱へしと云ふに至りては吾人は驚惶戰慄せざらんとして能はず囚人は場に引き出されて焼き殺さるゝか亦は餓へたる野獸の餌食となるなり尙ほ之よりも甚しきは囚人を併殺に扮せしめ美衣美冠を纏ふて場に上らしめ忽ちにして着衣の中より火焰起りて焼死せしむる等殘忍の狀名狀すべからず吾人は此等を見るに忍びざる者なるも古昔の人には反て珍奇なりと見えたるべし何んとなれば吾人古文學を涉獵穿鑿するも此の血を注ぐ殘忍なる遊戯を非難攻撃するの記事を見出す事なければなり

教育なき未開の人民之をなす尙ほ恕すべし然れども教育は其頂點に達したる人民の中に之れあるは何ぞや吾人若し希臘羅馬の古典を研究して其文物技藝の隆盛なりしを讀み昔時世界は美と榮とを以て充

てりと思惟せんか之れ偏見不眞實なるを如何にせん古人の教育には眞の精神的修養を欠きたりき外見は完美圓滿なるも精神は依然として舊き生れながらの修養なきものとして存せりき精神を全く改造して内なる人を清潔にすると云ふ事は異教の人の夢想だもせざる處なりき青年に古典を研究せしむるの要は永久に亘るべき生命には希臘人羅馬人は終に達し得ず隨て精神の平安を得る能はざりし事を彼等に知らしむるにありとのヘルバルトの言吾人を欺かざるなり蓋し彼等の希望は現世にありて來世に非ざれば能ふ限り肉的快乐を肆にせんと勉めたるなるべしされば老若男女を問はず貧富貴賤に論なく血腥き所業を見て快哉を唱へ比武場の露と消へ失する者を目して價値なく危険なる奴隸囚人穢多乞食の類と同視したるなれ由之觀是舊世界は人道の何物たるかを眞に解し得ざりし事明けし人としての人間

の價值は未開異境の人と雖も均しく共有すべきものたる事は彼等の考へ及ばざる處の眞理なり是れ古代大に行はれ希臘人羅馬人の以て正しく且つ缺くべからざる制度として存したりし奴隸制度の根源たるなれ

奴隸制度

古への人は奴隸を人間視せざれば奴隸は自由の意志なく正義を行ふの能力なく隨て徳義心なき者となせり古への大思想家たるプレトーすら此問題に關して大に迷ふたるの形跡あり彼曰く奴隸にして有徳なる者ありて其身を犠牲にし主人を助けたる者あるは眞なりと雖も奴隸制度を如何に解釋せば至當なるやは至て困難なる問題なり併し造物主が既に支配する者支配さるゝ者を定めて之を宜しとせる以上

は奴隸制度も又た至當なる制度たるを失はざるべしとアリストート川の如きは奴隸制度を全く是認して斯く曰へり整理せる家には必ず二種類の器具あり一は生なき者他は生ある者とす前者は靈魂なき奴隸にして後者は靈魂を具ふる器具即ち奴隸なりとす奴隸は靈魂を附與せられ居るもそは不完全にして且つ意志なきなりと羅馬人の考ふる處ろ又た之と同じフロラスは奴隸を以て他種族の人間なりとなすフーロは其著農業論に於て論して曰く耕作に要用なる器具三つあり曰く蠶なる者即ち荷車曰く無意味の音を發する者即ち牛馬曰く人言を解し之と話し得る者とシセロの如き賢哲すら自分の奴隸の死せる時其友に書き送りてかく曰へり彼の死は奴隸に似合しからざる程余を哭さしむと恰も吾人が愛犬亦是愛育せるカナリヤ鳥を失へる時に發する一片の吊詞に似ずやさればドシシヤスが遊獵中其奴隸が時來

らざるに野猪を射殺したりとて之を磔刑に處したる時シセロは此は
 或は酷に過ぎたるべしと云へるのみなれ
 奴隸は人に非ずして一個の物品なれば其持主は之を如何様にもなし
 得るの権利あり奴隸は少しの権利なく財産を所有する權なく即ち己
 に屬するものは取りも直さず主人のものなりき婚儀を取結ぶ能はず
 名は父たり子たりと雖も法律は之を承認せず奴隸は法廷に於て證言
 する能はず奴隸の待遇は實際法律の明文に指示するよりも緩和なり
 しや論なしと雖も大体之に據りし事も疑ふ能はざる事實とす奴隸を
 賣買し贈與し交換し讓與するは人の好む處に任す之を貸借するも常
 なりき借主之を苛遇し之を害ふや財産の損害と見なして貸主に賠償
 せば事足りり豈に敢て奴隸の安否に關せんや奴隸市は近世の家畜市
 の如く開かれて男女の奴隸は陳列せられ諸人の縦覽に任せりき之を

商ふ者は種々なる方法を以て其物品を飾り買ひ手の目を引けり買ふ
 者は之を視て彼等の健全なるや否やを判せんために手を以て熟ら之
 を検査し歩行せしめ走らしめ躍らしめ口を開きて齒を示さしめ等せ
 りき之を購ふや焼印して其所有を明にし少しの過失あるや之を鞭ち
 之を屠り老耄勞に堪へざる者は牛馬と交換するか或は之を殺して死
 せる獸類と一處に穴を掘りて之を投捨てたりき然れども吾人は奴隸
 は常に斯く一体に苛遇せられたりと云ふに非ず
 そは彼等奴隸は價高き財産にして多大の資本を投じたるものなれば
 所有者は大に留意して經濟的に之を取扱ふべきに事實は之に反して
 人間的財産たる事を忘れて出來得る限り利益を收めんとしたりきさ
 れば能ふ限り僅少なる衣食を與へて之を維持し出來得る限りの利益
 を之より収めんとはしたるなれ現今最劣等の労働者と雖も其當時の

奴隸と比較せば如何ばかり幸福なるぞや思半ばに過ぐるなるべし奴隸にして最も薄運なるは田野を耕作する者にてありき羅馬の大地主等は廣大なる耕地を所有しければ之を耕すに數千萬人の奴隸を使役せりクロデアスインドラスと云へる富有なる羅馬人は四千人以上の奴隸を遺して死し他にも此の如き者數多ありしや疑なし此等の奴隸は運動の自由なく牛馬羊豚の類と居を同せしめられ鐵鎖を以てつながれ何にか些細なる過失あらんか地下の不潔極まる地牢屋に幽せれ死を待つのみなりき奴隸の狀態此の如く憐むべき者たるに關らず起ちて之を改良せんとする者一人もなかりき田野を耕す奴隸よりも一層不幸なる者を市中の大製造場中に使役せらるゝ奴隸なりとす田野にあるものは新鮮なる空氣を自由に吸収し得べしと雖も工場内の者は衣食不充分なるのみならず胸に烙印せられて朝より夕に至るまで

少しの閑暇なく使役せられたり家内の用に使役せらるゝ奴隸は以上の二者より比較的安樂なりき王侯の宮廷内に使役せらるゝ奴隸は特に其主人に對して侮るべからざる程の勢力ありき然も猶ほ彼等の境涯は恐るべき者否と殆んど聽者をして戰慄せしむべき者あり主人宴會を催さんか奴隸は食卓の後に立ちて主人の唾をふき取り又た其吐瀉物を除去し終夜食する事なく物云ふ事なく侍べらざるべからず若し誤て一言隻句の其口より出てんか地牢に投せらるゝか鮮血のしたり出づるまで打擲さるか或は之を斬殺するか或は之を池中に投じて魚餌となしたりき然れども是れ豈に雷に一人人間に行はれたる私刑の制裁なりしのみならんや羅馬の法律も之を嚴罰するの條項を具へたりき若し一家の主人其家の中にて殺されんか下手人の見當らざる時には其家の奴隸は悉くみな殺さるゝの規定なりきテロ帝の時へグ

ニアス、セカンダスと云へる市の重役殺されたる時下手人相願はれざるため老若男女を問はず四百の奴隷一度に屠殺せられたる事ありき勿論此時に際して有力なる議員の立法院に立ちて此事の酷に過ぎたるを説きしも議員の多数は法は曲ぐ可からず若し之を緩にせんか後世恐るべきの結果を生ずるや必せり吾人は一層酷に過ぎん事を欲する者なりとの説遂に勝利を占めたりき事情此の如ければ同一の家屋に生れ生長したる主人と奴隷と雖も相互に疑ひ反目し合ひし事は自然の結果とす奴隷制度の上流社會の道德に及ぼしたる悪影響は實に怖るべきものありき彼等の眼界に映する奴隷は人間に非ずして劣等動物なれば之を如何に遇しはづかしむるも決して其耻辱に非ずされば奴隷の所有主は獸的慾情を其奴隷の上に肆にしたるなれ婦女子の如きも其本來の柔和性を棄て己れ所有の女奴隷を打擲して劍を蒙

らしめ極度の苛遇を施したる敢て怪むに足らずかし古昔婦女の地位甚だ低かりしも奴隷制度の致せし處たりしや明して特に弊害の甚かりしは子弟の教育上にありき何んとなれば奴隷には少しも權力なく子弟の言ふがまゝに何事もなさしめざれば主人の怒りに觸る事を恐れられたればなり又た奴隷制度の正直なる労働を排斥したるの結果中等社會を組成せしめ能はざりし事も明白なる事實也朝廷及墮落し極まりたる貴族社會より發出せる腐敗の空氣が直ちに深く羅馬人一般に行渡りたるも多くは皆奴隷制度の致せし所たるや疑なき也奴隷を劣等動物として遇せし結果如何ん彼等の心賤しくなり懶惰に流れ虚偽を構へ逆心を起さしむるに至れるや論なし奴隷の遵奉すべき唯一の徳は其主人に従順なるにあり善悪は敢て問ふ所に非ずされば奴隷は道德上責任なく主人を視て以て己れの讐敵となし機會の乘

すべきあらば忽ち起て復讐せんとの意氣陽に見るを得べし事情此の如くなれば人が數多の奴隸を所有せば所有せる丈け多くの敵をもつに均しと唱へしも敢て怪むに足らざるなり然らば自由を賦與せられたる奴隸は如何と云ふに此又た均しく羅馬人民を腐敗に導びきし一要素なりしなり彼等の數は頗る大にして其勢力實に侮るべからざりき彼等の中には戦争に従事し殊功を樹てたる者あれどもその多くは主人が外見を飾るの虚榮心より自由にされたる者なりき此等の者より小役人職工及び商人を募りければ忽ちにして富巨万を累ね榮華に耽る者出づるに至りき其多くは前に仕へたる家に止まり家扶家令となり執事となりて万事万端家事を司とるのみならず朝廷に奉仕する者あるに至りき其故は自由なる羅馬市民は奉仕と云ふ意味を含める事は何事によらず之を忌避し皇帝に奉仕する事すら耻辱と見做したれば

ば勢ひ帝王は其臣下を解放されたる奴隸の中に求めざるを得ざるに至りしかば此等の者の入りて秘書官となり出納官となりて實際に國家の實權を握れる事一再にして足らざりき彼等が亦た壓制なる君主が其暴行を逞せんとする時手先となりて弱き者を酷遇したるも明なる事實とす特に彼等が上下貴賤に論なく道德上の腐敗を蔓延せしむるの器たりしなり然れどももし吾人にして古昔には一人として奴隸の人間としての權利を認めたる者なかりしと斷案を下さんか之れ大なる誤謬に陥るなり何んとなれば古昔の希臘詩人中には奴隸の權利を明に認めたる者あればなりユリビデスの如きは奴隸てふ忌まはしき名を蒙れる奴隸にして其心奴隸ならざる者よりも清き者ありと稱へ假令彼は奴隸なりと雖も均しく人たりと唱へたる詩人もありきセチカの如きはかく

云へり人は人に對して神聖なる物なり吾人人類は皆一様に同一なる
 元素より作成せられたる同一の運命を有する者なり奴隸制度が人の
 靈肉兩つながら束縛する者と考ふる者は誤謬の甚しき者なり肉体は
 其主人に服従する者なるも靈魂は依然自由なるなり人の奴隸として
 生れたるは不幸たるや論なしと雖も之がために其天性をも損するな
 りと斷ずるは非なり余は奴隸を余の「温和なる友人と呼ぶを憚
 らざる者なり」と以上の如き説は次第に勢力を得つゝ來りて羅馬の法
 律習慣を改むるに至りたるも初めには至て影響する事少く奴隸制
 度は絶体的に必用なる者にして從て正しき制度なりしなり特に之を
 維持するに數百年來の習慣あり法律あり輿論あるに於てをや
 されば奴隸が眞に自由の凱歌を奏するに至れるは神の子基督が自ら
 自由にする者は實に自由なる者なる事を教へ神の子自ら僕の形体を

とり十字架上の奴隸の如き死を遂ぐるに至りて始めて人間の威權に
 關するストイック派の哲理セネカの美説が持來し能はざりし日を見
 るに至れるなれ當時人道てふ問題に就き諸説翕然として興り之を基
 督教以上のものとなし或は少くとも基督教が衰運に向ひつゝあれ
 ば其後繼者たるべき者なりと揚言する輩顯はるゝに至れるが之は眞
 の人道は基督教の生み出せし者なる事を全く忘れたる近眼者流の淺
 見のみ

道德革新の必要

物すでき繪は我等の眼前に披らかれたり吾人は之を畫いて故意に甚
 た暗澹たらしめたるに非ざる事を信ず然れども實際より離るゝ事遠
 しとの譏を蒙らざらんがために吾人は讀者に注意を乞ふの一事あり

何んぞや曰く此の恐るべき腐敗の中にありて猶ほ健全なる分子の存在したるや疑なしと云ふ事之なり若し然らざらんか羅馬帝國の滅亡は最一層速かなりしや明けし帝國の道德的生命に關して吾人の知る處は重もに羅馬市を標準とせし者にして腐敗の極めて大なりし事は疑なき也之と同時に地方州郡に於ける亦た兵營の存在する處に於ける道德の腐敗未だ彼れが如く甚しからざる事も疑ひなき事實とす吾人が特に此處に記すべきは當時の状態を描ける記録は悉くみな不利益に現象を特筆大書したるの形跡ある事なりとす此は至善てふ者は常に自らに就て言ふ事甚だ少なく別けて衰運に赴ける時に際しては沈黙を守る者なればなりされば吾人は茲に斷言せんとす一般人民の腐敗上述の如くなりしも猶ほ其中に平和温健なる家庭の存在するにありて腐敗も之に侵入する能はず正直なる勞働によりて粗食を得勤

勉にして思慮に富める家妻の善良なる母として其子女を養育したる事をそれ然り而して吾人がなほ以下の如き斷案を下さざるを得ざる理由は何ぞや曰く多神教世界は倫理的亦た宗教的兩つながら瓦解の點に到達し道德に於ても信仰に於ても均しくみな破産したる者にして革新の因りて來るべき動力の眼前に横るもの皆無なりし事を然り而して吾人は斯の如き動力が那邊に存在せりと想像し得べきや宗教に於てか非ず第二世紀の末に當りて凡神教的信仰の沛然として再興したりしは明なり即ち第一世紀に大に行はれたる不信仰は其跡を斷ちて今や迷信は人心を支配するに至りければ道德風教の上にも大影響を及ぼせり然れども記せよ反動は再生に非ざる事を凡神教的信仰は再び起りて勢力を逞し當時の基督教に比して過大なる權力を弄せしが如く見えしも此は決して道德革新を遂行し得ざりき何んと

なれば凡神教的信仰と道徳との間に存する關係は基督教の信仰と其生涯との間に存するものと全く異なる所あればなり異教徒が神々を道義風教の擁護者として之を尊崇したるは無論なり彼等の神々と雖も惡を罰し善に酬いざるにあらざりしも基督教と凡神教との二個の組織に大差ありし事は以下述ぶる處に因りて明なりとす即ち凡神教の神々は道義風教の創立者にも非ず又た之が實行者にもあらざりし事なり況んや人をして之を實踐躬行せしむる點に於てをや是に反して吾人は神々が却て最も恐ろしき道義風教の犯則者たりし事を認む凡神教の神祇誌を閲みするに神々が不道徳不品行を敢てしたる記録少なしとせず凡神教徒が強姦姦淫をなして法廷に引き出さるゝや神々の實例を引證して己れの罪惡を辯護したるの例多々なりき神々を尊拜するは己れの心を潔むるの爲めならずして却て不道徳の行爲を

奨勵するの結果を生じたりきテレンスの記する處に據れば一人の姦通者はジュビターの實例を引て己れの罪惡を辯護したる事ありと此は慥に作者の作爲したる出來事に非ずして實際に起りし事柄にてありしや明なり姦通者語を結んで曰く神之を爲す人たる我れ之をなす何んの惡しき事あらんと神々既に頼むに足らず凡神教徒は己れに頼りて以て道徳的生涯を導かざるべからず是れ則古代の世界に於て謙遜てふ徳の缺損せし所以なりとす希臘人羅馬人に謙遜てふ事の了解せられざりしは己れの有する徳は神の幫助に因りて得たるに非ずして皆な自ら得たるものなればなり故に彼等は得々として之を人に誇りて敢て神々を凌ぐに至りきさればストイツク派に屬する人々は己れ自ら神と思ひしも少しも怪むに足らざる也人間の脆弱をかこつ事甚だ切なるセチカすらも汝の全心全力を哲學に注て之を研究し蘊奥を

極めよ然らば汝は總ての人に卓絶し神々に劣る唯だ甚だ僅少なるに至らん」と云ひ又「只だ汝自己を賞嘆せよ」と云へるが如き當時人心の向ふ處を摘示して餘りありと云ふべし悔改を通じて新生を得ると云ふが如き思想は全然凡神教徒の間に存せざりしなり是を以て之を觀れば反動的信仰は凡神教より湧出し得べきも道德の革新乃ち新生てふ事は決して望むべからざる事なるや明けし

宗教既に徳義風教を維持して人心を善に導く能はず然らば國家てふ思想善く之を遂行して人心の腐敗を一掃し得しか當時と雖も猶ほ勇敢にして公益のためには一身一家を犠牲にするを厭はざる古昔の羅馬武士的氣質を有せる愛國者敢て少なきに非ざりしなりライン河邊に駐屯して國境を固め蠻族の襲來を撃退し數度その勝利ある軍旗を日耳曼に進め海を涉りて英國に進入し東に北に帝國の範圍を擴め其

駐屯所を文明開化の中心となしたる軍隊の中には舊精神の幾分を保存しありければ主權は自ら彼等の掌中に歸し舊文明てふ建築物を少時たりとも瓦解より免かれしめたりしは軍隊の中に生育して軍人的教育を受けたりし帝王なりし也然れども道德の革新を此より望むは恰も木によりて魚を求むるが如きのみ國家は已に其精髓まで腐爛せり軍人の跋扈は唯だに之れが病根の一徵候なりしのみ國家の缺損せし處は良心の制裁なりしなり是ありてこそ初めて市民が強制によりて良心的に法律を遵守すべきなれ人民法律に服従する事なくして國家は如何にして一日も存在し得べき壓制によりて人民の服従を得んとつとむる國家は危いかな神々の祟を恐れしむるを以て本旨としたる凡神教的信仰は實に強迫的制裁を有せるのみなれば一度此制裁の弛廢するや又之を收拾回復し能はざりき瓦解の難を免れんがために